

VR-09



VR-730



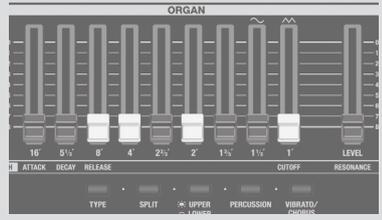
本機の概要

音色セクション

本機には、オルガン、ピアノ、シンセサイザーの3つの音色セクションがあり、それぞれパネル上で独立しています。2つの音色を同時に鳴らしたり、鍵盤を2つの鍵域に分けて左右で異なる音色を鳴らしたりすることもできます。

オルガン・セクション

ハーモニック・バーを操作して、オルガン音色を作ることができます。



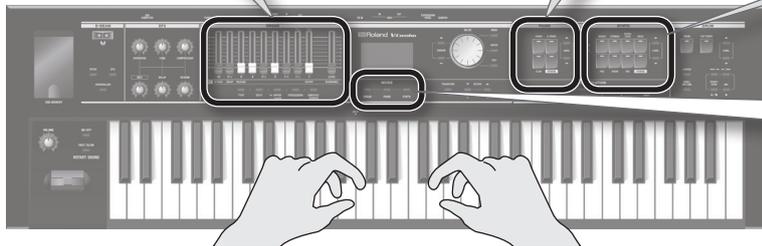
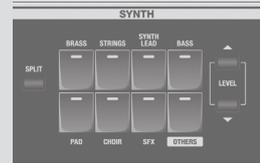
ピアノ・セクション

ピアノ音色を選ぶことができます。



シンセサイザー・セクション

シンセサイザー音色を選ぶことができます。



MODE ボタン



ワンタッチで、オルガン音色、ピアノ音色、シンセサイザー音色を単独で鳴らすことができます。

参照

- ・『音色を選ぶ』(P.13)
- ・『オルガン音色を変化させる』(P.17)
- ・『シンセサイザー音色を変化させる』(P.23)
- ・『2つの音色を組み合わせる』(P.28)

※ 図は VR-09 です。

エフェクト／ロータリー

エフェクトやロータリー効果（回転スピーカーのうねり効果）をかけることができます。つまみやボタンを操作することで、リアルタイムに音色を変化させることができます。



参照

- ・『音に効果を加える』(P.24)
- ・『ロータリーを使う』(P.20)

レジストレーション

音色やエフェクトの設定、組み合わせなどをレジストレーションに登録することができます。レジストレーションに登録した設定を呼び出して、次々と切り替えることができます。



参照

『お好みの音色を選ぶ（レジストレーション）』(P.15)

ドラム・セクション

ドラム・セクションでは、以下のことができます。

- ・鍵盤の演奏でドラム音色や効果音を鳴らす (P.16)。
- ・内蔵のリズム・パターン、USBメモリーの曲を再生しながら演奏する (P.33、P.35)。
- ・演奏を録音する (P.34)。
- ・ルーパーを使ったパフォーマンスをする (P.38)。



目次

本機の概要	3	2つの音色を組み合わせる	28
各部の名称とはたらき	6	2つの音色を重ねて演奏する (デュアル)	28
フロント・パネル	6	ピアノ音色/シンセサイザー音色を組み合わせる	28
リア・パネル (機器を接続する)	8	オルガン音色とピアノ音色/シンセサイザー音色を組み合わせる	28
演奏する前に	9	デュアルを解除する	28
電池を入れる	9	右手と左手で違う音色を演奏する (スプリット)	29
フェライト・コアの取り付けかた	9	デュアルの音色を左右の鍵域に振り分ける	29
スタンドに設置する	10	2つのオルガン音色を組み合わせる	29
電源を入れる/切る	11	ピアノ音色とシンセサイザー音色を組み合わせる	31
電源を入れる	11	オルガン音色とピアノ音色/シンセサイザー音色を組み合わせる	31
電源を切る	11	ドラム音色をローワー・パートで鳴らす	32
デモ曲を聴く	11	鍵盤の分かれる位置 (スプリット・ポイント) を変える	32
付属の USB メモリー・プロテクターの使いかた	12	スプリットを解除する	32
音色を選ぶ	13	リズム・パターンに合わせて演奏する	33
ワンタッチで音色を選ぶ	13	リズム・パターンを選ぶ/鳴らす	33
オルガン音色を選ぶ	13	リズム・パターンのテンポを変える	33
ピアノ音色を選ぶ	14	リズム・パターンの音量を調節する	33
シンセサイザー音色を選ぶ	14	演奏を録音する	34
好みの音色を選ぶ (レジストレーション)	15	録音する	34
レジストレーションを呼び出す	15	曲を再生する	35
レジストレーションのバンクを切り替える	15	曲の名前を変更する	36
レジストレーションに登録する	16	曲を削除する	36
ドラム音色を選ぶ	16	ルーパーを使う	38
オルガン音色を変化させる	17	ルーパーで録音する	38
ハーモニック・バーを使う	17	リズム・パターンを鳴らしながら録音する	39
ハーモニック・バーのセッティング例	19	オーディオ・ファイルを読み込んで再生/録音する	39
ロータリーを使う	20	フレーズを消去する	39
ツイン・ロータリーを使う	20	フレーズを保存する	40
パーカッションを使う	21	便利な機能	41
ビブラート/コーラスを使う	22	一定時間が経過すると自動で電源が切れるようにする (Auto Off)	41
シンセサイザー音色を変化させる	23	ディスプレイの明るさを調節する (LCD Contrast)	41
音量の変化のしかたを変える (ATTACK、DECAY、RELEASE)	23	レジストレーションを USB メモリーに保存する (Save Registration)	41
音質を変える (CUTOFF、RESONANCE)	23	USB メモリーに保存したレジストレーションを読み込む (Load Registration)	42
音に効果を加える	24	USB メモリーに保存したレジストレーションを 1 つずつ読み込む (Load One Regist)	42
エフェクトをかける (EFX)	24	USB メモリーに保存したレジストレーションを削除する (Delete Registration)	43
音色を変化させる/効果音を鳴らす (D-BEAM コントローラー)	25	USB メモリーを初期化する (Format USB)	43
D-BEAM コントローラーの設定をする	25	シンセサイザー音色を初期化する	44
音の高さを変える/ビブラートをかける (ピッチ・ベンド/モジュレーション・レバー)	26	工場出荷時の設定に戻す (Factory Reset)	44
音程をなめらかに変化させる (Portamento)	26		
音程が変化する時間を設定する	26		
鍵域を変える	27		
鍵域をオクターブ単位で上げ下げする (オクターブ)	27		
鍵域を移動する (トランスポーズ)	27		

各機能の詳細設定をする (メニュー)..... 45

- メニューの基本操作 45
 - ビブラート効果やコーラス効果を加けるパートを選ぶ (Vibrato/Chorus Part) 45
 - リーケージ・ノイズの量を設定する (Leakage Level) 45
 - 鍵盤を押したときのクリック音の大きさを設定する (On Click Level) 45
 - 鍵盤を離したときのクリック音の大きさを設定する (Off Click Level) 45
 - 低域の増幅/減衰量を設定する (Organ Low Gain) 46
 - 高域の増幅/減衰量を設定する (Organ High Gain) 46
 - ロータリー効果のタイプを選ぶ (Rotary Type) 46
 - ウーファアの回転周期が変化する速度を設定する (Woofer Accel) 46
 - ツイーターの回転周期が変化する速度を設定する (Tweeter Accel)..... 46
 - ウーファアの回転 (SLOW → FAST) が変化する速度を設定する (Wf Rise Time)..... 46
 - ツイーターの回転 (SLOW → FAST) が変化する速度を設定する (Tw Rise Time)..... 46
 - ウーファアの回転 (FAST → SLOW) が変化する速度を設定する (Wf Fall Time) 46
 - ツイーターの回転 (FAST → SLOW) が変化する速度を設定する (Tw Fall Time) 46
 - ウーファアの低速回転時の速度を設定する (Wf Slow Speed) 46
 - ツイーターの低速回転時の速度を設定する (Tw Slow Speed) 46
 - ウーファアの高速回転時の速度を設定する (Wf Fast Speed) 47
 - ツイーターの高速回転時の速度を設定する (Tw Fast Speed) 47
 - マルチ・エフェクトのタイプを選ぶ (MFX Type) 47
 - オーバードライブにミックスするダイレクト音の音量を設定する (OD/Dry Mix Level) 47
 - ディレイのタイプを選ぶ (Delay Type) 47
 - リバーブのタイプを選ぶ (Reverb Type)..... 48
 - ウォール・タイプを変える (Wall Type) 48
 - イニシャル・タッチの効き具合を調節する (Initial Touch)..... 48
 - ペダル・パート音色の発音のしかたを変える (PedalBass Mode) 48
 - パート 2 の発音のしかたを変える (Solo Mode) 48
 - ペダル・スイッチの機能を切り替える (Damper Assign) 48
 - ダンパー・ペダルが効くパートを選ぶ (Damper Part) 49
 - エクスプレッション・ペダルの機能を切り替える (Expression Assign) 49
 - エクスプレッション・ペダルが効くパートを選ぶ (Expression Part) 49
 - エクスプレッション・ペダルの効き具合を変える (Expression Curve) 49
 - ピッチ・ベンドのレンジを設定する (Pitch Bend Range) 49
 - D-BEAM の感度を調節する (D-BEAM Sensitivity) 50
 - モジュレーション・レバーでロータリー効果を切り替える (Modulation Lever)..... 50
 - フットスイッチでレジストレーションを切り替える (Registration Shift) 50
 - フットスイッチの機能を切り替える (L Foot Switch、R Foot Switch) 50
 - アコースティック音色に効果を加けるパートを選ぶ (N.Control)..... 50

- リズム・パターンのテンポ設定を自動的に切り替えな
いようにする (Auto Std Tempo)..... 51
- 曲を移調して再生する (Playback Transpose)..... 51
- オーディオ録音の音量を調節する (Audio Rec Gain) 51
- メトロノームの設定をする (Switch)..... 51
- メトロノームの音量を調節する (Volume) 51
- MIDI 送信チャンネルを選ぶ (TxMIDI Channel) 51
- MIDI IN モードを設定する (MIDI IN Mode) 51
- PC ナンバーの送信を切り替える (Send PC Switch) . 51
- PC ナンバーを設定する (PC Number) 52
- 映像機器をコントロールする (Visual Control) 52
- 他の楽器と音の高さを合わせる (Master Tune) 53
- アトリエ・モードで演奏する (ATELIER Mode)..... 53

他の機器と接続する 54

- USB でパソコンと接続する..... 54
- 外部 MIDI 機器と接続する..... 54

ワイヤレス LAN 機能について 55

- ワイヤレス LAN 機能とは? 55
- 基本の接続方法 (WPS で接続する) 55
- ワイヤレス LAN 機能の設定..... 56
 - ワイヤレス・メニュー (Wireless) 56
 - その他の設定 (Options) 56

故障かな?と思ったら..... 58

エラー・メッセージ一覧..... 61

記憶される設定..... 62

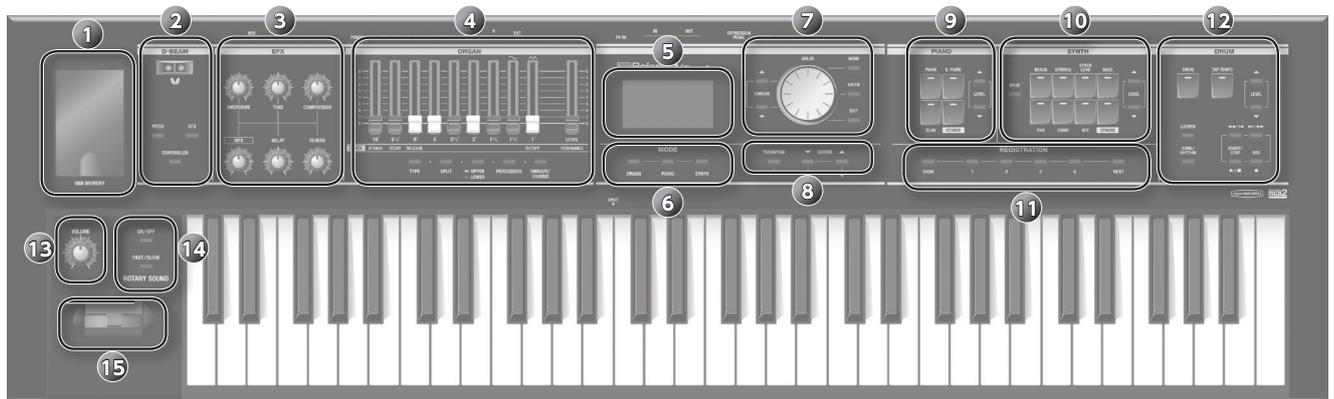
- 電源を切っても記憶される設定..... 62
- レジストレーションに登録される設定..... 62

主な仕様 63

索引..... 64

各部の名称とはたらき

フロント・パネル



※ 図はVR-09です。

番号	名称	説明	ページ
1	USB MEMORY 端子	<p>USB メモリー (別売) を接続します。 録音した曲の保存や再生をしたり、レジストレーション・セットの保存や読み込みをしたりすることができます。 また、ワイヤレス USB アダプター (別売:WNA1100-RL または同等品) を装着することで、ワイヤレスに対応したアプリケーションを使用することができます。 ※ VR-730 の USB MEMORY 端子は、リア・パネルの右側にあります。</p>  	P.34 P.41 P.55
D-BEAM コントローラー			
D-BEAM コントローラーに手をかざすことで、音にいろいろな効果をかけます。			
2	[PITCH] ボタン	オンにすると、D-BEAM コントローラーでピッチ (音の高さ) をコントロールできます。	P.25
	[SFX] ボタン	オンにすると、D-BEAM コントローラーで効果音を鳴らすことができます。	
	[CONTROLLER] ボタン	オンにすると、D-BEAM コントローラーに割り当てた機能をコントロールできます。	
エフェクト・セクション			
音にエフェクトをかけます。			
3	[OVERDRIVE] つまみ	音を歪ませる効果をかけます。	P.24
	[TONE] つまみ	音質を調節します。	
	[COMPRESSOR] つまみ	音のバラツキを抑える効果をかけます。	
	[MFX] つまみ	マルチ・エフェクトをかけます。	
	[DELAY] つまみ	音を遅らせて、山びこのような効果をかけます。	
	[REVERB] つまみ	音に残響を加える効果をかけます。	
オルガン・セクション			
オルガン音色を選びます。また、オルガン音色を作ったり音量を調節したりできます。			
4	ハーモニック・バー	オルガン音色を作ります。 演奏しながら、リアルタイムに音色を変化させます。	P.17
	[LEVEL] バー	オルガン・セクションの音量を調節します。	—
	[TYPE] ボタン	オルガン音色のバリエーションを選びます。	P.13
	ORGAN [SPLIT] ボタン	オルガンを 2 つの鍵域に分けます。	P.29
	[UPPER/LOWER] ボタン	ハーモニック・バーで音色を作るときに、パートを選びます。	P.29
	[PERCUSSION] ボタン	オルガン音色のパーカッション効果をオン/オフします。	P.21
	[VIBRATO/CHORUS] ボタン	オルガン音色のビブラート、コーラス効果をオン/オフします。	P.22
5	ディスプレイ	音色名など、いろいろな設定を表示します。	—
6	MODE [ORGAN] ボタン	オルガン音色で演奏できます。	P.13
	MODE [PIANO] ボタン	ピアノ音色で演奏できます。	P.14
	MODE [SYNTH] ボタン	シンセサイザー音色で演奏できます。	P.14

番号	名称	説明	ページ
7	CURSOR [▲] [▼] ボタン	パラメーターを選びます。	—
	[VALUE] ダイアル	値を変更します。	—
	[MENU] ボタン	メニューの画面に入ります。	P.45
	[ENTER] ボタン	値の確定や操作の実行をします。	—
	[EXIT] ボタン	1つ前の画面に戻ったり、操作を中止したりします。	—
8	[TRANPOSE] ボタン	鍵域を半音単位で上げ下げします。	P.27
	OCTAVE [DOWN] [UP] ボタン	鍵域をオクターブ単位で上げ下げします。	P.27
ピアノ・セクション			
ピアノ音色を選んだりピアノ音色の音量を調節したりします。			
9	[PIANO] ボタン	ピアノの音色を選びます。	P.14
	[E. PIANO] ボタン	エレクトリック・ピアノの音色を選びます。	
	[CLAV] ボタン	クラビ音色を選びます。	
	[OTHERS] ボタン	パネル上に出ていないピアノ音色を選びます。	
	PIANO LEVEL [▲] [▼] ボタン	ピアノ・セクションの音量を調節します。	—
シンセサイザー・セクション			
シンセサイザー音色を選んだりシンセサイザー音色の音量を調節したりします。			
10	SYNTH [SPLIT] ボタン	鍵域を分けて、2つの音色を鳴らすことができます。	P.29
	[BRASS] ボタン	ブラス音色を選びます。	P.14
	[STRINGS] ボタン	ストリングス音色を選びます。	
	[SYNTH LEAD] ボタン	シンセ・リード音色を選びます。	
	[BASS] ボタン	ベース音色を選びます。	
	[PAD] ボタン	シンセ・パッド音色を選びます。	
	[CHOIR] ボタン	クワイア音色を選びます。	
	[SFX] ボタン	効果音を選びます。	
	[OTHERS] ボタン	パネル上に出ていないシンセサイザー音色を選びます。	
	SYNTH LEVEL [▲] [▼] ボタン	シンセサイザー・セクションの音量を調節します。	—
レジストレーション			
お好みの音色設定を登録したり呼び出ししたりすることができます。			
11	[BANK] ボタン	レジストレーションのバンクを選びます。	P.15
	[1] ~ [4] ボタン	レジストレーション (1 ~ 4) を選びます。	P.15
	[NEXT] ボタン	次のレジストレーションを選びます。	P.15
	ドラム・セクション		
ドラム・キットやリズム・パターン、曲を選んだり、鳴らしたりします。			
12	[DRUM] ボタン	ドラム・キットを選びます。	P.16
	[TAP TEMPO] ボタン	リズム・パターンのテンポを設定します。	P.33
	DRUM LEVEL [▲] [▼] ボタン	ドラム・キットや曲、リズム・パターンの音量を調節します。	P.33
	[LOOPER] ボタン	ルーパー機能をオン/オフします。	P.38
	[SONG/RHYTHM] ボタン	曲またはリズム・パターンを選びます。	P.33 P.35
	[●] (REC) ボタン	演奏を録音します。	P.34 P.38
	[▶/■] (START/STOP) ボタン	録音や再生を開始/停止します。	P.35
	[◀◀/▶▶] [▶/▶▶] ボタン	曲の再生位置を移動します。	P.35
	鍵盤左側のコントローラー		
13	[VOLUME] つまみ	全体の音量を調節します。	—
14	ROTARY SOUND [ON/OFF] ボタン	回転スピーカー (ロータリー効果) をオン/オフします。	P.20
	ROTARY SOUND [FAST/SLOW] ボタン	回転スピーカーの速度を変えます。	P.20
15	ピッチ・ベンド/ モジュレーション・レバー	レバーを使って、リアルタイムに音に変化を加えます。	P.26

リア・パネル（機器を接続する）

DAMPER 端子

ペダル・スイッチやダンパー・ペダル（別売：DP シリーズ）を接続します。音に余韻をつけることができます。ペダルを踏んでいる間、鍵盤から指を離しても音が切れずに余韻が続きます。また、ルーパーの操作をすることもできます（Damper Assign: P.48）。



EXPRESSION PEDAL 端子

エクスプレッション・ペダル（別売：EV シリーズ）を接続します。音量をコントロールすることができます。
※ エクスプレッション・ペダルは、必ず指定のものをお使いください。他社製品を接続すると、本体の故障の原因になる場合があります。

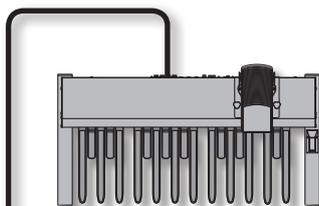


メモ

ペダル・スイッチ（別売：DP-2）を接続して、ルーパーの操作をすることもできます（Expression Assign: P.49）。

PK IN 端子

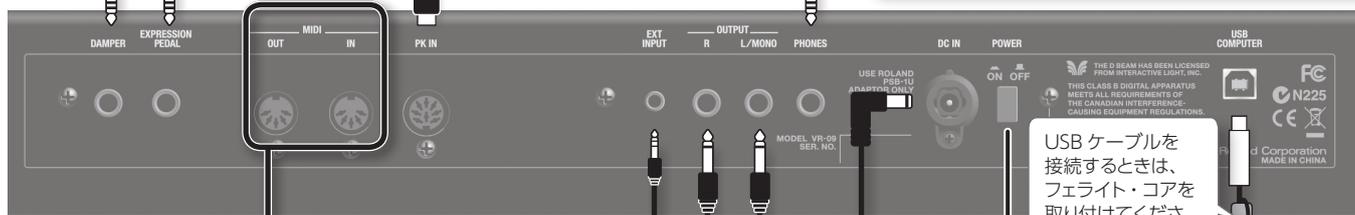
ペダル鍵盤（別売：PK-9）を接続します。オルガンのペダル・パートを演奏することができます。



PHONES 端子



ヘッドホン（別売）を接続します。



※ 図は VR-09 です。

MIDI 端子

54 ページ

MIDI 機器と接続して演奏情報をやりとりします。
※ MIDI 端子と USB COMPUTER 端子の MIDI 機能は同時に使用できません。

EXT INPUT 端子

オーディオ・プレーヤーなどをステレオ・ミニ・プラグで接続すると、接続した機器の音が OUTPUT 端子から出力されます。音量は接続した機器側で調節してください。
※ 録音はできません。



OUTPUT 端子

アンプやミキサーなどを接続して、音声を出力します。



DC IN 端子

付属の AC アダプターを接続します。

AC アダプターは、インジケーターのある面が上になるように設置してください。AC アダプターをコンセントに接続すると、インジケーターが点灯します。



USB ケーブルを接続するときは、フェライト・コアを取り付けてください（VR-730 のみ：P.9）。

[POWER] スイッチ

11 ページ

電源をオン/オフします。

USB COMPUTER 端子

54 ページ

市販の USB ケーブルを使用して、本機とお使いのパソコンを接続すると、演奏情報（MIDI 情報）をやりとりすることができます。
※ MIDI 端子と USB COMPUTER 端子の MIDI 機能は同時に使用できません。



- ※ 他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞り、すべての機器の電源を切ってください。
- ※ MIDI OUT 端子に MIDI 機器を接続した状態で、本機の電源をオン/オフすると、MIDI OUT 端子から予期しないデータが出力される場合があります。問題がある場合は、本機の電源が入っている状態で MIDI 機器を接続/はずしてください。
- ※ エクスプレッション・ペダルを操作するときは、可動部と本体の間に指をはさまないように注意してください。お子様のいる場所で使用する場合は、必ず大人のかたが監視/指導してください。

演奏する前に

電池を入れる

市販の充電式ニッケル水素電池（単3形）を8本使うと、ACアダプターを接続しなくても演奏することができます。

- ※ 電池の使いかたを間違えると、破裂したり、液漏れしたりする恐れがあります。『安全上のご注意』『使用上のご注意』（『安全上のご注意』チラシと『取扱説明書』）に記載の電池に関する注意事項を守って正しくお使いください。
- ※ ACアダプターを使用する場合でも、電池を入れておけば、万一本機からACアダプターのコードが抜けても演奏が続けられます。
- ※ 本機の電池使用時は、PK IN端子に接続したPK-9に電源を供給することができません。PK-9に付属のACアダプターを接続してお使いください。

使用できる電池について

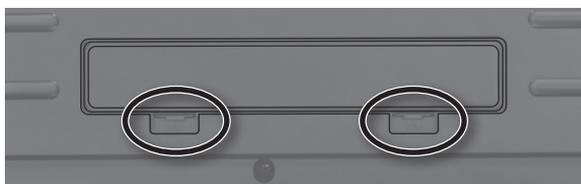
電池で使用する場合は充電式ニッケル水素電池を使用してください。

充電式ニッケル水素電池を使用したときの連続使用時間は、常温で約5時間です。（ただし、USBメモリー接続時は約3時間です。連続使用時間は、使用状況などにより異なります。）

ご注意!

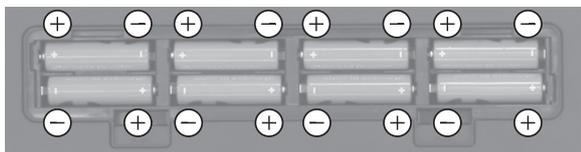
アルカリ電池やマンガン電池は使用しないでください。

1. 本体底面にある電池カバーのツメを押しながら、電池蓋をはずします。



※ 本機を裏返すときは、破損を防ぐためボタンやつまみなどを保護してください。また、落下や転倒を引き起こさないよう取り扱いに注意してください。

2. +、-の向きに注意して、電池をバッテリー・ケースに入れます。



ご注意!

電池の+と-を間違えないように、指示どおり入れてください。

3. 電池カバーを確実に閉めます。

電池の交換時期

電池が消耗してくると、ディスプレイに「Charge Battery」と表示されます。

使用を中断し、電池を充電してください。

ご注意!

「Charge Battery」と表示されてからさらに使用を続けると、「Battery Low!」と表示され、操作ができなくなります。

フェライト・コアの取り付けかた

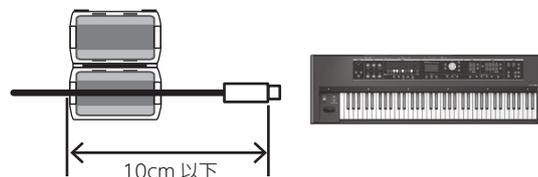
VR-730のみ

USBケーブルを使うときは、付属のフェライト・コアを取り付けてください。

電磁ノイズ防止用ですので取り外さないでください。

1. フェライト・コアをケーブルに取り付けます。

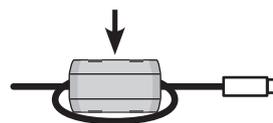
※ 必ず、本機側のプラグの間近（10cm以下）に取り付けてください。



2. ケーブルをフェライト・コアに1周巻き付けます。



3. カチッと音がするまで押し込みます。



ご注意!

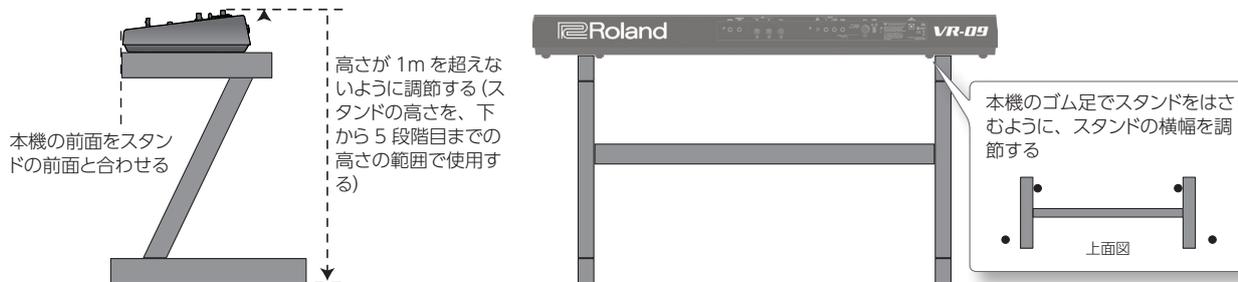
- フェライト・コアを取り付けるときは、指などを挟まないようご注意ください。
 - フェライト・コアを閉めるときは、ケーブルを無理に挟まないでください。
- また、ケーブルの太さによっては、1周巻くとフェライト・コアが閉められないものがあります。1周巻いて取り付けられる太さのケーブルをご使用ください。

スタンドに設置する

スタンドを設置するときは、指などを挟まないよう、十分にご注意ください。
本機をスタンドに設置するときは、当社製のスタンドKS-18Z、KS-12をご使用ください。
ご使用になるときは以下のように設置します。

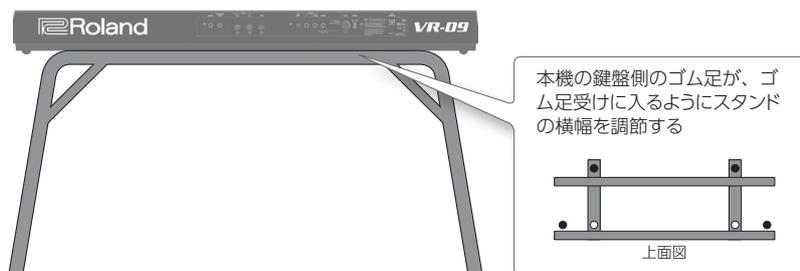
※ ペダル鍵盤（別売：PK-9）を使う場合は、KS-12をお使いください。

KS-18Z



※ 図は VR-09 です。

KS-12

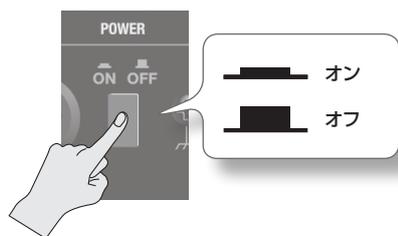


※ 図は VR-09 です。

電源を入れる／切る

電源を入れる

1. 電源を入れる前に、以下を確認します。
 - ・ AC アダプターや周辺機器は正しく接続されていますか？
 - ・ 本機や接続している機器の音量は最小になっていますか？
2. 本機の [POWER] スイッチをオンにします。



3. 接続している機器の電源をオンにします。
4. 鍵盤を弾いて音を聴きながら、本機の音量と接続している機器の音量を少しずつ上げて調節します。

電源を切る

1. 電源を切る前に、以下を確認します。
 - ・ 本機や接続している機器の音量は最小になっていますか？
2. 接続している機器の電源をオフにします。
3. 本機の [POWER] スイッチをオフにします。



オート・オフ機能について

本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます (Auto Off 機能)。自動的に電源が切れないようにするには、Auto Off 機能を解除してください (P.41)。

- ・ 電源が切れると編集集中の設定は失われます。残しておきたい設定はあらかじめ保存しておいてください。
- ・ 電源を再びオンにするときは、電源を入れ直してください。

デモ曲を聴く

デモ曲を聴いてみましょう。

1. 電源を入れます。
2. [▶/■] (START/STOP) ボタンを押します。
デモ画面が表示されます。



3. [▶/■] (START/STOP) ボタンを押します。
デモ曲の再生が始まります。
選ばれていたデモ曲の再生が終わると、次のデモ曲の再生が始まります。
4. [▶/■] (START/STOP) ボタンを押します。
デモ曲の再生が停止します。

メモ

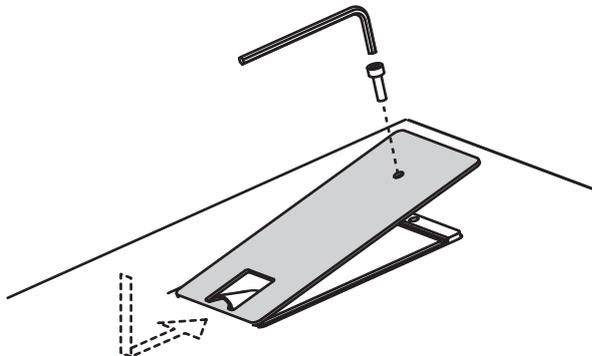
[LOOPER] ボタンまたは [SONG/RHYTHM] ボタンが点灯している場合は、[▶/■] (START/STOP) ボタンを押してもデモ画面は表示されません。

※ これらのデモ曲を個人で楽しむ以外に権利者の許諾なく使用することは、法律で禁じられています。

付属の USB メモリー・プロテクターの 使いかた

VR-09 のみ

付属の USB メモリー・プロテクターは、VR-09 に接続した USB メモリーの盗難防止にお使いいただけます。



ご注意!

- 必ず付属のネジを使ってください。
- ネジを締める／はずすときは、必ず付属の六角レンチを使ってください。ネジの頭に合っていないと、ネジの頭をつぶしてしまうことがあります。
- ネジを締めるときは、締めつけすぎないようにご注意ください。六角レンチが空回りして、ネジの頭をつぶしてしまうことがあります。
- ネジを締めるときは、時計方向に六角レンチを回してください。ネジをはずすときは、反時計方向に六角レンチを回してください。



- 取りはずしたネジは小さなお子様が悪戯で飲み込んだりすることのないようお子様の手の届かないところへ保管してください。
- USB メモリー・ボックスに、異物（硬貨、針金など）を絶対に入れないでください。
- USB メモリー蓋を開閉するときは、可動部と本体の間に指をはさまないように注意してください。お子様のいる場所で使用する場合は、必ず大人のかたが監視／指導してください。

音色を選ぶ

ワンタッチで音色を選ぶ

MODE ボタンを使うと、オルガン、ピアノ、シンセサイザーの音色を単独で鳴らすことができます。

参照

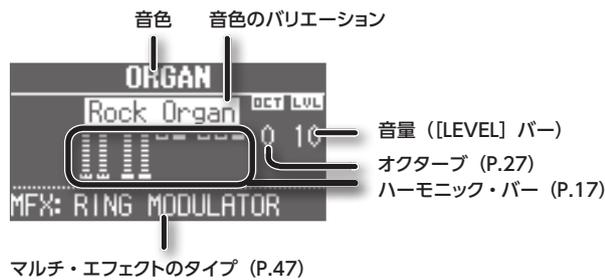
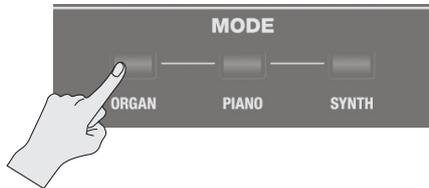
音色について詳しくは、『データ・リスト』(PDF)の『音色一覧』をご覧ください。
『データ・リスト』(PDF)は、ローランドのホームページからダウンロードすることができます。

<http://www.roland.co.jp/manuals/>

オルガン音色を選ぶ

1. MODE [ORGAN] ボタンを押します。

MODE [ORGAN] ボタンが点灯します。

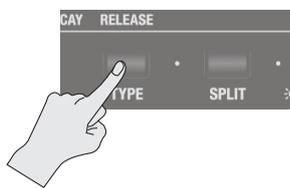


メモ

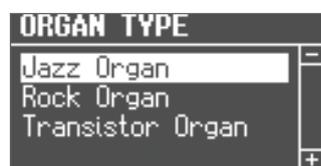
CURSOR [▲] [▼] ボタンで項目にカーソルを合わせ、[VALUE] ダイアルを回すことで、音色のバリエーションとマルチ・エフェクトのタイプを変更することができます。

オルガン音色のバリエーションを選ぶ

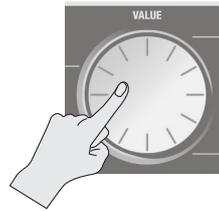
1. オルガン・セクションの [TYPE] ボタンを押します。



ORGAN TYPE 画面が表示されます。



2. [VALUE] ダイアルを回して、音色の種類を選びます。



メモ

- 鍵盤を弾くと、カーソルの位置にある音色を確認することができます。
- ORGAN TYPE 画面が表示されている間に [TRANSPPOSE] ボタンを押すと、ORGAN TYPE 画面が保持されます。[EXIT] ボタンを押すと、元の画面に戻ります。
- 本機のオルガン音色では、ビンテージ・オルガン独特の浅い鍵盤位置での発音を再現しています。これを「クイック・ファイアリング機能」といいます。
- 本機のオルガン音色では、トーンホイール・オルガンの発音原理をデジタル技術で忠実に再現した、「バーチャル・トーンホイール音源」を搭載しています。

クイック・ファイアリング機能とは

ビンテージ・オルガン鍵盤は非常に接点の浅いため、鍵をわずかに押し下げるだけで発音が始まります。そのため、グリッサンドなどの奏法が効果的にできるという特長を持っています。またその副作用として、急速に離鍵すると鍵がリバウンド（跳ね返り）し、二度鳴りのような振る舞いをすることが知られています。ミュージシャンの中には、これを積極的に使って驚くような高速連打奏法を実現する演奏家もいました。

本機のクイック・ファイアリング機能は、これらの特長を忠実にシミュレートしています。オルガン・セクションの音は高速発音させているため、急速に離鍵するとリバウンドが起こることがありますが、故障ではありません。

※ オルガン以外の音色を鳴らす場合、またオルガン音色とその他の音色とを組み合わせると鳴らす場合、クイック・ファイアリング機能は無効になります。

バーチャル・トーンホイール音源とは

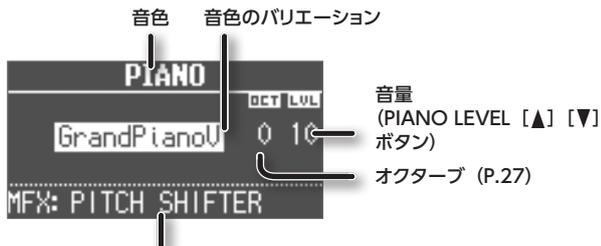
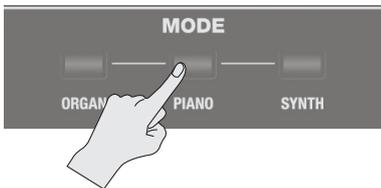
伝統的なトーンホイール・オルガンは、「トーンホイール」と呼ばれる91個の歯車で音を作っています。トーンホイールはそれぞれ異なる高さの音が出るような歯車になっています。この歯車をモーターで回転させて電磁コイルにより音声信号に変換し、ハーモニック・バーの組み合わせと鍵盤を弾いた状態から出力する音声信号を選んで、オルガン音を作り出しています。

本機のバーチャル・トーンホイール音源は、トーンホイール・オルガンの発音原理をデジタル技術で忠実に再現したものです。

ピアノ音色を選ぶ

1. MODE [PIANO] ボタンを押します。

MODE [PIANO] ボタンが点灯します。



マルチ・エフェクトのタイプ (P.47)

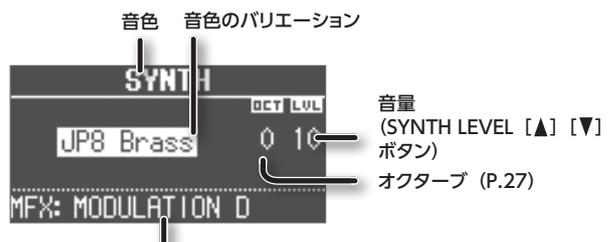
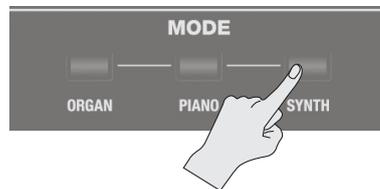
メモ

CURSOR [▲] [▼] ボタンで項目にカーソルを合わせ、[VALUE] ダイアルを回すことで、音色のバリエーションとマルチ・エフェクトのタイプを変更することができます。

シンセサイザー音色を選ぶ

1. MODE [SYNTH] ボタンを押します。

MODE [SYNTH] ボタンが点灯します。



マルチ・エフェクトのタイプ (P.47)

メモ

CURSOR [▲] [▼] ボタンで項目にカーソルを合わせ、[VALUE] ダイアルを回すことで、音色のバリエーションとマルチ・エフェクトのタイプを変更することができます。

ピアノ音色のバリエーションを選ぶ

1. ピアノ・セクションの音色ボタンを押します。



音色バリエーションの選択画面が表示されます。



2. [VALUE] ダイアルを回して、音色のバリエーションを選びます。

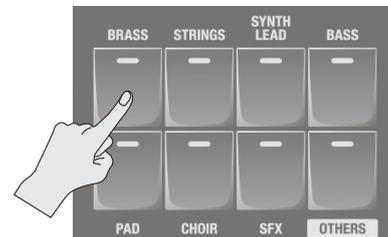


メモ

- 鍵盤を弾くと、カーソルの位置にある音色を確認することができます。
- 音色バリエーションの選択画面が表示されている間に [TRANSCOPE] ボタンを押すと、選択画面が保持されます。[EXIT] ボタンを押すと、元の画面に戻ります。

シンセサイザー音色のバリエーションを選ぶ

1. シンセサイザー・セクションの音色ボタンを押します。



音色バリエーションの選択画面が表示されます。



2. [VALUE] ダイアルを回して、音色のバリエーションを選びます。



メモ

- 鍵盤を弾くと、カーソルの位置にある音色を確認することができます。
- 音色バリエーションの選択画面が表示されている間に [TRANSCOPE] ボタンを押すと、選択画面が保持されます。[EXIT] ボタンを押すと、元の画面に戻ります。

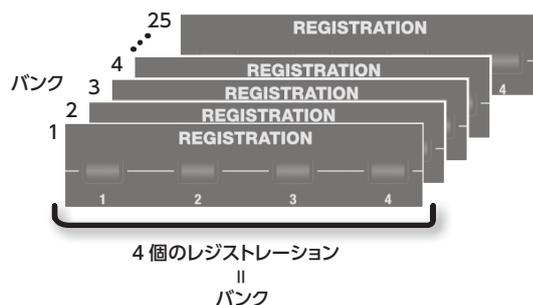
好みの音色を選ぶ (レジストレーション)

オルガン、ピアノ、シンセサイザーの音色や組み合わせ、その他の設定など好みの設定に名前をつけて、レジストレーションに登録することができます。

レジストレーションはボタン1つで瞬時に呼び出すことができます。曲に応じて音色を切り替えることはもちろん、ライブ・パフォーマンスのセッティングにも即座に対応することができます。

レジストレーションは、4つのレジストレーションを1つのバンクとして構成されています。

バンクは25個あり、合計で100個のレジストレーションを登録できます。



メモ

- 工場出荷時は、同じ設定のレジストレーションが数バンク含まれています。
- レジストレーションは、USBメモリーにまとめて保存することができます (P.41)。
- USBメモリーに保存したレジストレーションは、1つずつ、またはまとめて読み込むことができます (P.42)。

レジストレーションを呼び出す

- [1]～[4] ボタンを押して、レジストレーションを選びます。



レジストレーション画面が表示されます。

バンク番号

レジストレーション番号

レジストレーション名



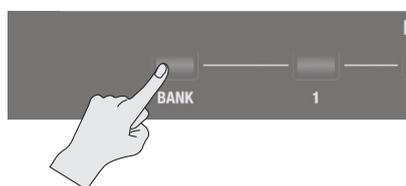
メモ

- レジストレーション番号にカーソルを合わせて [VALUE] ダイアルを回すと、レジストレーションを選ぶことができます。
- [NEXT] ボタンを押すと、次のレジストレーションを選ぶことができます。
- レジストレーション4が選ばれた状態で [NEXT] ボタンを押すと、次のバンクのレジストレーション1が選ばれます。

レジストレーションのバンクを切り替える

バンクを切り替える (Bank 1～4)

- [BANK] ボタンを押します。



BANK画面が表示されます。



- [1]～[4] ボタンを押して、バンクを選びます。
- [1]～[4] ボタンを押して、レジストレーションを選びます。
選んだバンクのレジストレーションに切り替わります。

バンクを切り替える (Bank 5～25)

- [BANK] ボタンを押します。
BANK画面が表示されます。
- [VALUE] ダイアルを回して、バンクを選びます。



- [ENTER] ボタンを押します。
- [1]～[4] ボタンを押して、レジストレーションを選びます。
選んだバンクのレジストレーションに切り替わります。

レジストレーションに登録する

1. 音色やエフェクトなどをお好みの設定にします。
2. 以下の画面が表示されるまで、[1] ~ [4] のいずれかのボタンを押し続けます。

WRITE REGISTRATION 画面が表示されます。



3. 登録先を選びます。

CURSOR [▲] [▼] ボタンと [VALUE] ダイアルで、登録先のバンクとレジストレーション番号を選びます。

4. レジストレーションの名前を設定します。

ボタン/ダイヤル	操作内容
CURSOR [▲] [▼] ボタン	変更する文字を選びます。
[VALUE] ダイアル	文字を変更します。
MODE [ORGAN] (Del) ボタン	文字を削除します。
MODE [PIANO] (Space) ボタン	空白を挿入します。

5. [ENTER] ボタンまたは MODE [SYNTH] (Write) ボタンを押します。

選んだレジストレーションに設定が登録されます。

参照

レジストレーションに登録される設定については、『レジストレーションに登録される設定』(P.62) をご覧ください。

ドラム音色を選ぶ

本機では、鍵盤の演奏でドラム音色や効果音を鳴らすことができます。

音の組み合わせはドラム・キットから選ぶことができます。

ドラム・キットを変えると、1つ1つの鍵で鳴る音色が変わります。

参照

どの鍵にどの打楽器音が割り当てられているかは、『データ・リスト』(PDF) の『ドラム・キット一覧』をご覧ください。『データ・リスト』(PDF) は、ローランドのホームページからダウンロードすることができます。

<http://www.roland.co.jp/manuals/>

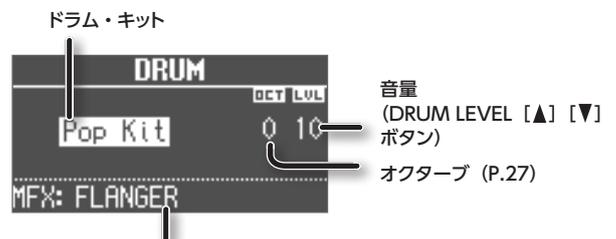
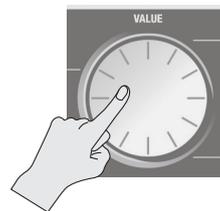
1. [DRUM] ボタンを押して、点灯させます。



DRUM 画面が表示されます。



2. [VALUE] ダイアルを回して、ドラム・キットを選びます。



マルチ・エフェクトのタイプ (P.47)

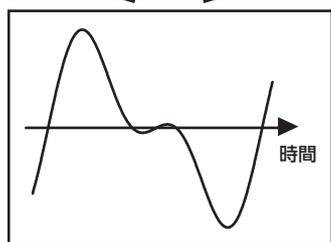
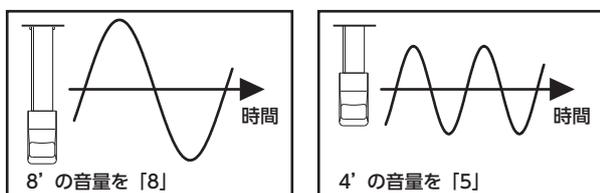
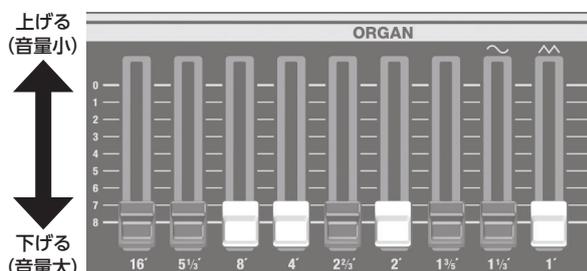
メモ

- ルーパー機能 (P.38) を使ってドラム音色を重ね録音することで、リズム・パターンのように使用することができます。
- 鍵盤を弾くと、カーソルの位置にある音色を確認することができます。
- DRUM 画面が表示されている間に [TRANSPOSE] ボタンを押すと、DRUM 画面が保持されます。[EXIT] ボタンを押すと、元の画面に戻ります。
- ドラム・キットの音量は、DRUM LEVEL [▲] [▼] ボタンで調節できます (P.33)。

オルガン音色を変化させる

ハーモニック・バーを使う

ハーモニック・バーにはフィート（音の高さ）が異なる音が割り当てられていて、これらの音を重ねることによっていろいろな種類のオルガン音色を作ることができます。ハーモニック・バーを完全に下げた状態が最も音量が大きく、完全に上げた状態のときは音が鳴らなくなります。



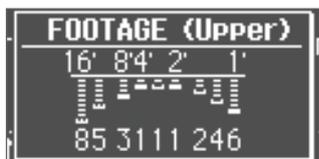
1. オルガン音色を選びます (P.13)。

オルガン音色の設定画面が表示されます。



2. ハーモニック・バーをスライドさせて、音量を調節します。

各フィートの音量が数字で表示されます。



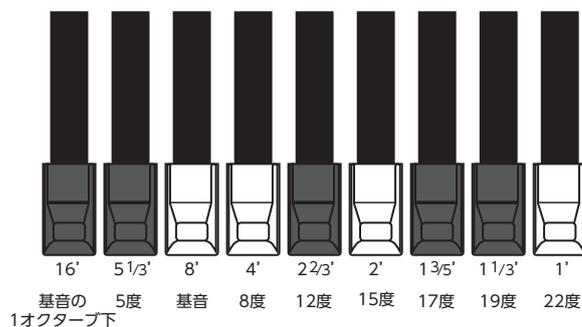
メモ

FOOTAGE 画面が表示されている間に [TRANSPOSE] ボタンを押すと、FOOTAGE 画面が保持されます。[EXIT] ボタンを押すと、元の画面に戻ります。

ポイント

ハーモニック・バーと音の高さの関係

中央のドの音 (C4) を弾いているとき、各ハーモニック・バーでは以下の音が鳴ります。



ハーモニック・バーは2色に色分けされています。8' に対して、オクターブの関係にあるものは「白色」、オクターブの倍音ではないものと低域は「黒色」です。

トーンホイール・オルガンの倍音構成

トーンホイール・オルガンでは、一部の音域ではハーモニック・バーの配置ごおりの倍音は鳴りません。耳障りな非常に高い音や低い音を抑えるために、高い音域では高いフィートが、低い音域では低いフィートが1オクターブ単位で折り返しています。本機は、トーンホイール・オルガンのこの特徴を忠実に再現しています。

オルガン音色を変化させる

オルガン音色に「Transistor Organ」を選んだときは

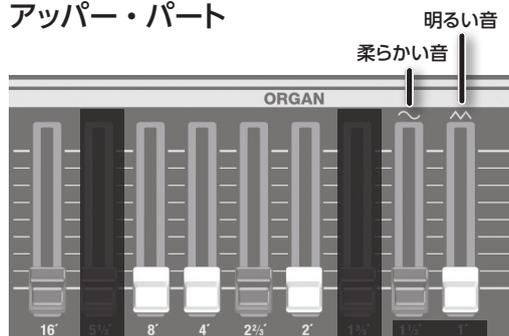
Transistor Organ (トランジスター・オルガン) は、フィートの構成が異なります。

操作できるハーモニック・バーは以下のとおりです。それ以外のハーモニック・バーは無効になります。

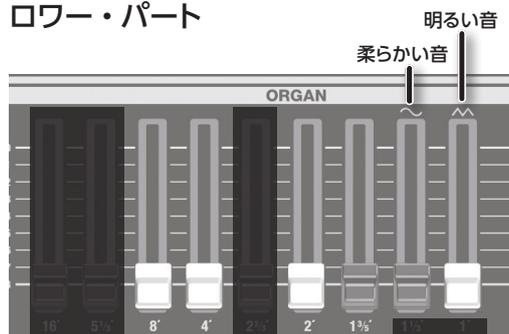
パート (P.29)	操作できるハーモニック・バー
アップパー・パート	16'、8'、4'、2 2/3'、2' (5本)
ロワー・パート	8'、4'、2'、1 3/5' (4本)

右側の「〜」と「^」アイコンのあるバーで、それぞれ「柔らかい音」「明るい音」の音量を調節します。
この2つのバーを完全に上げていると、オルガン音色は鳴りません。

アップパー・パート



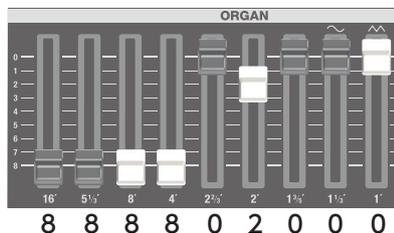
ロワー・パート



ハーモニック・バーのセッティング例

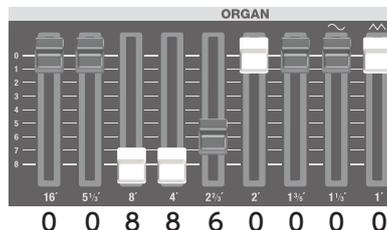
ハード・ロック風

70年代ハード・ロック風のセッティングです。
好みに応じて、2' (2 フィート) を少し入れます。
また、オーバードライブ (P.24) も使います。
オルガン・タイプ: Rock Organ
パーカッション: オン



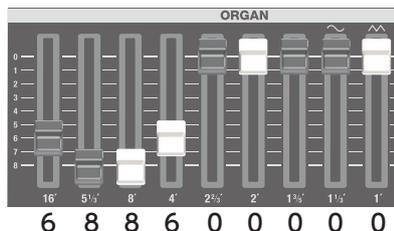
ロック風

70年代ロック風のセッティングです。
オーバードライブ (P.24) も使います。
オルガン・タイプ: Rock Organ
パーカッション: オン



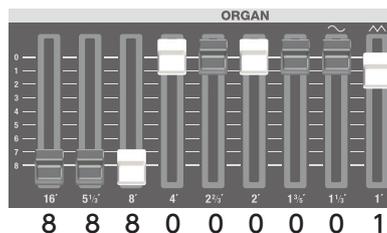
ポップス風

60年代ポップス風のセッティングです。
オルガン・タイプ: Jazz Organ
パーカッション: オン



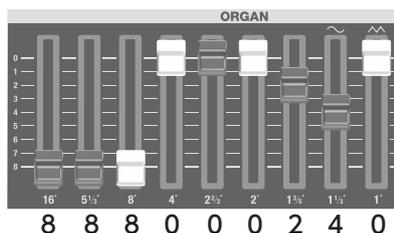
ブルース風

オーソドックスなブルースのセッティングです。
好みに応じて、1' (1 フィート) を少し入れます。
オルガン・タイプ: Jazz Organ
パーカッション: オフ



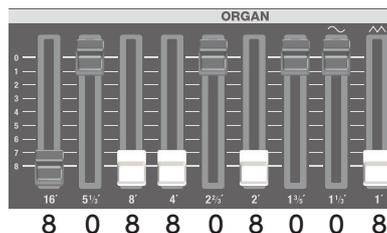
プログレッシブ・ロック風

70年代に流行したプログレッシブ・ロック風のセッティングです。
C-3 コーラス (P.22) とオーバードライブ (P.24) も使いま
す。
オルガン・タイプ: Rock Organ
パーカッション: オン



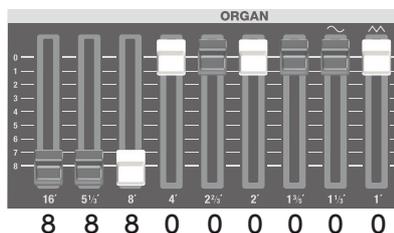
パイプ・オルガン風

パイプ・オルガン風のセッティングです。
リバーブ (P.24) も使います。
オルガン・タイプ: Jazz Organ
パーカッション: オフ



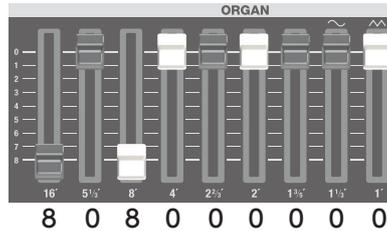
ジャズ風

ジャズ・オルガンの定番セッティングです。
C-3 コーラス (P.22) も使います。
オルガン・タイプ: Jazz Organ
パーカッション: オン



ジャズ風 (手ベース)

左手で弾くベース音色 (手ベース) のセッティングです。
オルガン・タイプ: Jazz Organ
パーカッション: オン



メモ

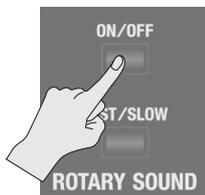
手ベースについて詳しくは、『ペダル・パートの音色を左手で演奏する (手ベース)』 (P.30) をご覧ください。

ロータリーを使う

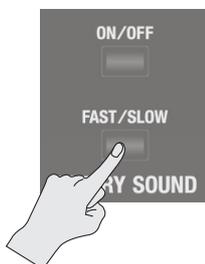
回転スピーカーを使ったときのように、音にうねりをつけることができます（ロータリー効果）。

1. ROTARY SOUND [ON/OFF] ボタンを押して、点灯させます。

音にロータリー効果がかかるようになります。



2. ROTARY SOUND [FAST/SLOW] ボタンを押して、点灯／消灯を切り替えます。



ROTARY SOUND [FAST/SLOW] ボタン	説明
点灯 (FAST)	回転スピーカーを速く回転させたときの効果が得られます。
消灯 (SLOW)	回転スピーカーをゆっくり回転させたときの効果が得られます。

ロータリー効果を「FAST」から「SLOW」に切り替えると徐々に音のうねりがゆっくりになり、「SLOW」から「FAST」に切り替えると徐々に音のうねりが速くなります。

メモ

- FAST、SLOW 時の回転速度や、ロータリー効果を切り替えてから変化するまでの速さを、ツイーターとウーファーで別々に設定することができます（ROTARY: P.46）。
- オルガン音色のみで演奏するときは、ピッチ・バンド／モジュレーション・レバーでロータリー効果をコントロールすることができます。レバーを向こう側に倒すことで、ロータリー効果のオン／オフや BRAKE を、レバーを左右に倒すことで、FAST / SLOW を切り替えることができます。モジュレーション・レバーで操作するロータリー効果については、『モジュレーション・レバーでロータリー効果を切り替える（Modulation Lever）』（P.50）をご覧ください。
- ペダル・スイッチ（別売：DP シリーズ）、エクスプレッション・ペダル（別売：EV シリーズ）、ペダル鍵盤（別売：PK-9）のフットスイッチ、または D-BEAM コントローラーを使って、FAST と SLOW を切り替えることもできます（P.25、P.48、P.50）。

ツイン・ロータリーを使う

ロータリー効果と合わせてマルチ・エフェクトの「TWIN ROTARY」を使うと、2 台の回転スピーカーを使ったときのような、より立体的で迫力のあるうねり効果が得られます。

- MODE [ORGAN] ボタンを押します。
- CURSOR [▼] ボタンを押して、「MFX」を選びます。
- [VALUE] ダイアルを回して、「TWIN ROTARY」を選びます。
- ROTARY SOUND [ON/OFF] ボタンを押して、点灯させます。
- [MFX] つまみを回して、ツイン・ロータリー効果のかかりかたを調節します。

つまみを右側に回すほど、2 台の回転スピーカーの音がミックスされ、複雑なうねり効果が得られます。

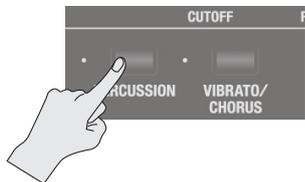
メモ

ツイン・ロータリーの回転速度は、ROTARY SOUND [FAST/SLOW] ボタンの設定に従います。

パーカッションを使う

音の立ち上がりにはアタック感のある音を加えて、音にメリハリをつけます。

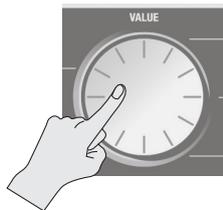
1. [PERCUSSION] ボタンを押して、点灯させます。



PERCUSSION 画面が表示されます。



2. CURSOR [▲] [▼] ボタンと [VALUE] ダイアルで、効果を選びます。



パラメーター	設定値	説明
VOLUME (Vol)	SOFT	パーカッションの音が小さくなり、ハーモニック・パーは通常の音量になります。
	NORMAL	パーカッションは通常の音量になり、ハーモニック・パーの音が小さくなります。
HARMONIC (Harm)	2ND	4' のハーモニック・パーと同じ高さのパーカッション音が鳴ります。
	3RD	2 2/3' のハーモニック・パーと同じ高さのパーカッション音が鳴ります。

パラメーター	設定値	説明
DECAY (Decay)	FAST	パーカッション音はすぐに消え、アタック感がある鋭い音になります。
	SLOW	パーカッションの音がゆっくり消えるようになり、アタック感が柔らかくなります。

※ パーカッションをオンにすると、ハーモニック・パーの 1' の音は出なくなります。

メモ

PERCUSSION 画面が表示されている間に [TRANSPOSE] ボタンを押すと、PERCUSSION 画面が保持されます。[EXIT] ボタンを押すと、元の画面に戻ります。



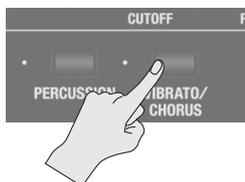
トーンホイール・オルガンのパーカッション音

トーンホイール・オルガンのパーカッション音は、鍵が何も押されていない状態から、初めて鍵を押したそのとき、同時に押した鍵だけに効果がかかります。レガートで演奏すると最初に弾いた音だけにパーカッションが付き、スタッカートで演奏するとすべての音にパーカッションが付きます。

ビブラート／コーラスを使う

音の高さに周期的な揺らぎをつける、ビブラート効果をかけることができます。また、ノーマルな音にビブラート効果かけた音を混ぜ合わせて、音に厚みや広がりをつけるコーラス効果をつけることができます。

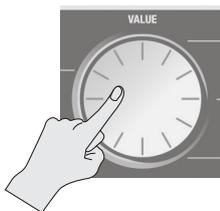
1. [VIBRATO/CHORUS] ボタンを押して、点灯させます。



VIBRATO/CHORUS 画面が表示されます。



2. [VALUE] ダイアルを回して、効果を選びます。



設定値	説明
V-1	弱いビブラート効果をかけます。
V-2	中ぐらいのビブラート効果をかけます。
V-3	強いビブラート効果をかけます。
C-1	弱いコーラス効果をかけます。
C-2	中ぐらいのコーラス効果をかけます。
C-3	強いコーラス効果をかけます。

メモ

VIBRATO/CHORUS 画面が表示されている間に [TRANSPOSE] ボタンを押すと、VIBRATO/CHORUS 画面が保持されます。[EXIT] ボタンを押すと、元の画面に戻ります。

シンセサイザー音色を変化させる

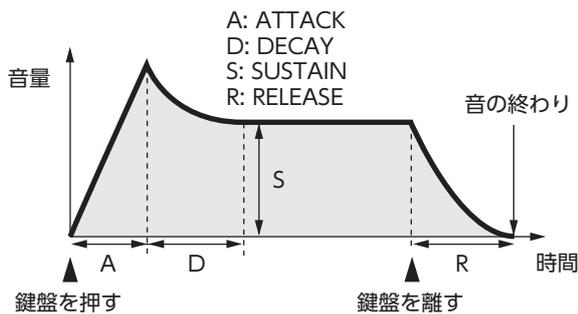
本機では、パネル上のハーモニック・バーを使って、シンセサイザー音色を変化させることができます。

メモ

- 2つの音色で演奏（スプリット、デュアル）している場合（P.28）、設定によって効果のかりかたが変わります。
 - オルガン音色と組み合わせているとき
オルガン音色のハーモニック・バーとして動作します。シンセサイザー音色は変化しません。
 - ピアノ音色と組み合わせているとき
ピアノ音色は変化させることはできません。シンセサイザー音色のみに効果がかかります。
 - シンセサイザー音色同士を組み合わせているとき
両方のシンセサイザー音色に効果がかかります。
- 1つのピアノ音色で演奏するときにも、効果をかけることができます。
- 特定のアコースティック音色（P.53）では、DECAY、CUTOFF、RESONANCEの効果はかかりません。

音量の変化のしかたを変える (ATTACK、DECAY、RELEASE)

楽器の音が鳴り始めてから消えるまでの、音量の変化を描いた線のことを、エンベロープといいます。鍵盤では、鍵を押してから離すまでの音量の変化になります。



パラメーター	説明
ATTACK	鍵盤を押さえてから、音が立ち上がるまでの時間
DECAY	音が立ち上がってから SUSTAIN のレベルに到達するまでの時間
SUSTAIN	鍵盤を押している間、持続する音量
RELEASE	鍵盤を離してから、音が消えるまでの時間

本機では、ハーモニック・バーの左側 3 本のバーで、現在選ばれている音色の ATTACK、DECAY、RELEASE の時間を変化させることができます。

1. シンセサイザー・セクションの音色を選びます（P.14）。
2. バーを動かして、各パラメーターの値を変化させます。

バー	設定値	説明
[ATTACK] バー	-64 ~ 63	バーを下げるほど音が立ち上がるまでの時間が短くなり、上げるほど音が立ち上がるまでの時間が長くなります。
[DECAY] バー	-64 ~ 63	バーを下げるほど SUSTAIN のレベルに下がるまでの時間が短くなり、上げるほど長くなります。
[RELEASE] バー	-64 ~ 63	バーを下げるほど音が消えるまでの時間が短くなり、上げるほど音が消えるまでの時間が長くなります。

バーを操作すると、画面に現在の設定値が表示されます。



メモ

- パラメーターの設定値が表示されている間は、[VALUE] ダイアルを回して値を変えることができます。
- 各パラメーターの数値は、各音色に設定されている初期設定値に対するオフセットで表されます。値「0」の状態（バーの位置が中央「4」付近）が初期状態です。
- 設定画面が表示されている間に [TRANPOSE] ボタンを押すと、設定画面が保持されます。[EXIT] ボタンを押すと、元の画面に戻ります。

音質を変える (CUTOFF、RESONANCE)

フィルターは、音の鳴りかたや特徴を決めているパラメーターのひとつです。音の成分を周波数によって削ったり強調したりすることで音質を変えることができます。

パラメーター	説明
CUTOFF	フィルターが効き始める周波数（カットオフ周波数）
RESONANCE	フィルターのカットオフ周波数付近を強調する度合い

本機では、ハーモニック・バーの右側 2 本のバーで、現在選ばれている音色の CUTOFF、RESONANCE を変化させることができます。

1. シンセサイザー・セクションの音色を選びます（P.14）。
2. バーを動かして、各パラメーターの値を変化させます。

バー	設定値	説明
[CUTOFF] バー	-64 ~ 63	カットオフ周波数を設定します。バーを下げるほど音が丸く（暗く）なり、上げるほど音が明るくなります。
[RESONANCE] バー	-64 ~ 63	カットオフ周波数付近の音を強調し、音色にクセをつけます。バーを下げるほど音色のクセが弱くなり、上げるほど音色のクセが強くなります。

バーを操作すると、画面に現在の設定値が表示されます。



※ 設定によっては、ノイズや大きな音が出る場合があります。接続しているミキサーやアンプの音量にご注意ください。

メモ

- パラメーターの設定値が表示されている間は、[VALUE] ダイアルを回して値を変えることができます。
- 各パラメーターの数値は、各音色に設定されている初期設定値に対するオフセットで表されます。値「0」の状態（バーの位置が中央「4」付近）が初期状態です。
- 設定画面が表示されている間に [TRANPOSE] ボタンを押すと、設定画面が保持されます。[EXIT] ボタンを押すと、元の画面に戻ります。

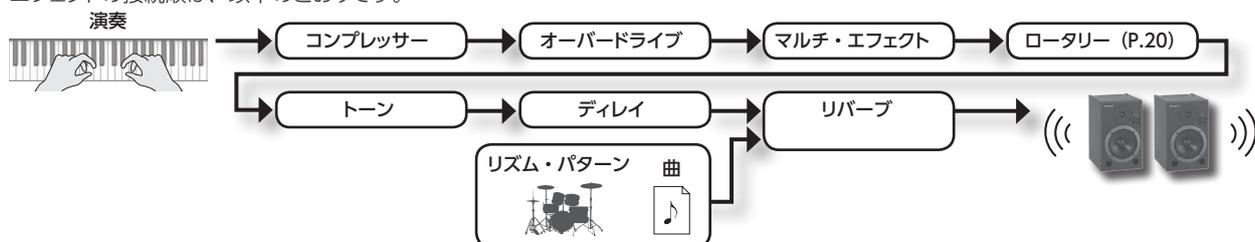
音に効果を加える

エフェクトをかける (EFX)

音に効果 (エフェクト) をかけて演奏することができます。本機には 7 系統のエフェクトが内蔵されており、それぞれ独立した設定ができます。ロータリーを除く 6 系統のエフェクトは、「グローバル・コントロール」により、効果的にエフェクトをかけることができます。

メモ

- 2 つの音色で演奏 (スプリット、デュアル) している場合 (P.28)、設定によって効果のかかりかたが変わります。
デュアルのとき: 両方の音色に同じエフェクトがかかります。
スプリットのとき: アッパー・パートにのみエフェクトがかかります (リバーブを除く)。ただし、オルガン音色をローワー・パートに割り当てた場合は、すべてのパートに同じエフェクトがかかります。
- エフェクトの接続順は、以下のとおりです。



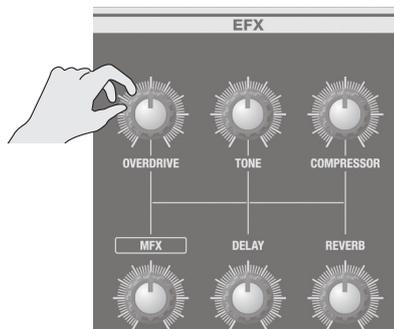
1. 音色を選びます (P.13)。

メモ

最初からエフェクトがかかっている音色もあります。
エフェクトのかかり具合は音色によって異なります。

2. 各つまみを回して、エフェクトのかかり具合を調節します。

※ エフェクトの効果によっては、ノイズや大きな音が出る場合があります。
接続しているミキサーやアンプの音量にご注意ください。



グローバル・コントロールとは

つまみひとつで、エフェクトを構成する複数のパラメーターを最適化することができる技術です。

つまみ	エフェクト	説明
[OVERDRIVE] つまみ	オーバードライブ	真空管アンプで歪ませたような、自然な歪みが得られます。 つまみを左に回しきると、効果がかかっていない状態になります。 つまみを右に回すほど、歪み具合が大きくなります。
[TONE] つまみ	トーン	低域、高域の音質を調節します。つまみが中央に設定されているときに、フラットな特性です。 つまみを左に回すほど中域が強調され、音抜けがよくなります。バンド演奏に適しています。 右に回すほど低域と高域が強調され、派手な音になります。ソロ演奏に適しています。
[COMPRESSOR] つまみ	コンプレッサー	大きなレベルの音を抑え、小さなレベルの音を持ち上げます。 ダイナミック・レンジを狭くして、バンドでの音抜けをよくする効果が得られます。 つまみを左に回しきると、コンプレッサー効果がかかっていない状態になります。 つまみを右に回すほど、全体の音量のバラツキが抑えられ、粒立ちのよい音になります。
[MFX] つまみ	マルチ・エフェクト	音そのものを変化させて、まったく違う種類の音に変える汎用マルチ・エフェクトです。 つまみを左に回しきると、効果がかかっていない状態になります。 メモ ・選ばれているマルチ・エフェクトのタイプは、ディスプレイ下段に表示されます。 ・カーソルをディスプレイ下段に移動して [VALUE] ダイアルを回すと、マルチ・エフェクトのタイプを変更することができます。 ・マルチ・エフェクトは、20 種類のタイプから選ぶことができます。メニューでマルチエフェクトのタイプを変更することもできます (MFX Type : P.47)。
[DELAY] つまみ	ディレイ	音を遅らせて、山びこのような効果をかけます。原音と重ねて、音に厚みと広がりを持たせることができます。 つまみを左に回しきると、効果がかかっていない状態になります。つまみを右に回すほど、ディレイ・タイム (原音が鳴ってから左右のディレイ音が鳴るまでの遅延時間) が長くなります。 メモ ディレイは、6 種類のタイプから選ぶことができます。メニューでディレイ・タイプを変更することもできます (Delay Type : P.47)。
[REVERB] つまみ	リバーブ	原音に残響を加え、空間の広さなどをシミュレートします。 つまみを左に回しきると、効果がかかっていない状態になります。つまみを右に回すほど、リバーブが深くかかります。 メモ メニューでリバーブ・タイプやウォール・タイプ (壁の材質) を変更することができます (Reverb Type : P.48, Wall Type : P.48)。

メモ

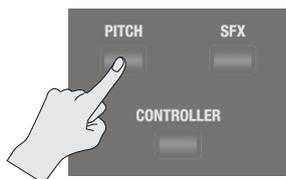
[DELAY] つまみ、[REVERB] つまみを回すと、タイプが表示されます。[VALUE] ダイアルを回してタイプを変更することができます。設定画面が表示されている間に [TRANSPOSE] ボタンを押すと、設定画面が保持されます。[EXIT] ボタンを押すと、元の画面に戻ります。

音色を変化させる／効果音を鳴らす (D-BEAM コントローラー)

フロント・パネル上にある D-BEAM コントローラーに手をかざすだけで、音色を簡単に変化させたり、効果音を鳴らしたりすることができます。

ライブでのパフォーマンスをよりいっそう引き立てることができます。

1. D-BEAM [PITCH]、[SFX]、[CONTROLLER] ボタンのいずれかを押して、点灯させます。



ボタン	説明
[PITCH] ボタン	D-BEAM コントローラーにかざした手の動きに従って、ピッチ（音の高さ）が変わります。 ※ オルガン音色とドラム音色にピッチはかかりません。
[SFX] ボタン	効果音を鳴らします。
[CONTROLLER] ボタン	D-BEAM コントローラーに割り当てた機能をコントロールします。

メモ

- ・ [SFX] ボタンには効果音を、[CONTROLLER] ボタンには演奏に関する機能を割り当てることができます。
- ・ 効果音の音量は、ドラム・セクションの音量と連動しています。DRUM LEVEL [▲] [▼] ボタンを押して、効果音の音量を調節することができます (P.33)。
- ・ スプリットしている場合 (P.29)、アッパー・パートにのみ [PITCH] ボタン、[CONTROLLER] ボタンの効果がかかります。

2. 鍵盤を弾いて音を出しながら D-BEAM コントローラーに手をかざし、ゆっくりと上下させます。

メモ

ピッチの変化幅を設定することができます (Pitch Bend Range : P.49)。

3. D-BEAM コントローラーをオフにするときは、手順 1 で押したボタンを押して、消灯させます。

D-BEAM コントローラーの有効範囲

D-BEAM コントローラーの有効範囲は右の図のようになっています。有効範囲から外れたところに手をかざしても効果は得られません。D-BEAM コントローラーの有効範囲は、強い直射日光の下では極端に小さくなってしまいます。屋外で D-BEAM コントローラーを使用するときにはご注意ください。



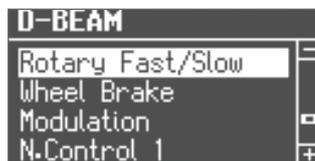
メモ

D-BEAM コントローラーは、周辺の明るさによって感度変化します。期待どおりの動作をしないときは、感度を調節し直してください。D-BEAM Sensitivity (P.50) の値を大きくするほど感度が高くなります。

D-BEAM コントローラーの設定をする

1. D-BEAM [SFX]、[CONTROLLER] ボタンのいずれかを押して、点灯させます。

D-BEAM 画面が表示されます。



2. [VALUE] ダイアルを回して、D-BEAM でコントロールしたい効果音または機能を選びます。

設定値	説明
[SFX] ボタン	

参照

効果音については、『データ・リスト』(PDF) の『効果音一覧』をご覧ください。
『データ・リスト』(PDF) は、ローランドのホームページからダウンロードすることができます。

<http://www.roland.co.jp/manuals/>

[CONTROLLER] ボタン	
Rotary Fast/Slow	ロータリー・スピーカーの回転速度の速い/遅いを切り替えます。
Wheel Brake	トーンホイール・オルガンの電源を切ることによって、トーンホイールの回転が停止していく様子を再現します (トーンホイール・ブレーキ効果)。 ※ オルガン音色以外には効果がありません。
Modulation	ビブラート効果が得られます。 ※ ビブラートが効かない音色があります。音色については詳しくは、『データ・リスト』(PDF) の『音色一覧』をご覧ください。
N.Control 1	特定のアコースティック音色に効果をつけます (P.53)。
N.Control 2	

3. [EXIT] ボタンを押して、操作を終えます。

メモ

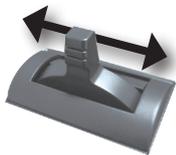
設定画面が表示されている間に [TRANSPOSE] ボタンを押すと、設定画面が保持されます。[EXIT] ボタンを押すと、元の画面に戻ります。

トーンホイール・ブレーキとは

トーンホイール・オルガンの電源を切ることによって、トーンホイールの回転が停止していく様子を再現します。トーンホイール・オルガンのアンプは真空管を使ったアナログ回路で構成されていたので、電源を切ってもしばらく鳴り続けます。しかし、電源を切ることでオルガンのトーンホイールは減速していくため、それによってピッチが下がっていきます。トーンホイールの回転を止めるという手法は、トーンホイール・オルガンではときどき使われていたようです。奇抜な奏者はこの効果を音楽の中で利用していました。

音の高さを変える／ビブラートをかける (ピッチ・ベンド／モジュレーション・レバー)

鍵盤を弾きながらレバーを左に倒すとピッチ（音程）が下がり、右に倒すとピッチが上がります。これをピッチ・ベンド効果といいます。



また、レバーを向こう側に倒すとビブラートがかかります。これをモジュレーション効果といいます。



レバーを左または右に倒しながら向こう側に倒したときは、両方の効果が同時に得られます。

メモ

- オルガン音色には、ピッチ・ベンド、モジュレーションはかかりません。オルガン音色のみで演奏するときは、ピッチ・ベンド／モジュレーション・レバーでロータリー効果をコントロールすることができます。レバーを向こう側に倒すことで、ロータリー効果のオン／オフや BRAKE を、レバーを左右に倒すことで、FAST / SLOW を切り替えることができます。
- スプリットしている場合（P.29）、アップパー・パートにのみピッチ・ベンド、モジュレーションがかかります。
- ピッチの変化幅を設定することができます（Pitch Bend Range：P.49）。
- モジュレーション・レバーによるロータリー効果のオン／オフや BRAKE を無効にすることができます（Modulation Lever：P.50）。
- 以下のアコースティック音色では、モジュレーション・レバーの操作でダイナミクス効果が得られます。
 - N.Trumpet
 - N.Alto Sax
 - N.Flute

音程をなめらかに変化させる (Portamento)

ポルタメント効果は、はじめに弾いた鍵盤と次に弾いた鍵盤との間の音程をなめらかに変化させる効果です。

ピアノ音色とシンセサイザー音色にポルタメント効果を加えることができます。

メモ

- 最初からポルタメントがかかっている音色もあります（初期設定）。
- スプリットしている場合（P.29）、アップパー・パートにのみポルタメント効果がかかります

1. [MENU] ボタンを押します。
2. [VALUE] ダイヤルを回して、「Portamento」を選びます。
3. [ENTER] ボタンを押します。
4. CURSOR [▲] [▼] ボタンを押して、「Portamento Switch」を選びます。
5. [VALUE] ダイヤルを回して、設定値を変えます。

設定値	説明
OFF	ポルタメント効果をオフにします。
ON	ポルタメント効果をオンにします。
DEFAULT	初期設定です。

6. [EXIT] ボタンを数回押して、操作を終えます。

音程が変化する時間を設定する

ポルタメント効果で、音程が変化する時間を設定することができます。

1. [MENU] ボタンを押します。
2. [VALUE] ダイヤルを回して、「Portamento」を選びます。
3. [ENTER] ボタンを押します。
4. CURSOR [▲] [▼] ボタンを押して、「Portamento Time」を選びます。
5. [VALUE] ダイヤルを回して、設定値を変えます。

設定値	0（短い）～127（長い）
-----	---------------

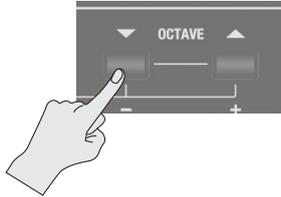
6. [EXIT] ボタンを数回押して、操作を終えます。

鍵域を変える

鍵域をオクターブ単位で上げ下げする (オクターブ)

鍵盤で弾いた音の高さを1オクターブ単位で変えることができます。

1. OCTAVE [DOWN] または [UP] ボタンを押します。



設定値	-3 ~ 0 ~ 3 (オクターブ)
-----	--------------------

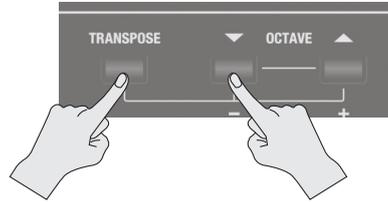
メモ

- 値が「0」以外に設定されていると、OCTAVE [DOWN] または [UP] ボタンが点灯します。
- OCTAVE [DOWN] と [UP] ボタンを同時に押すと、値が「0」に戻ります。
- 2つの音色を組み合わせで演奏する場合、カーソルの位置でオクターブを変えたい音色を選びます。

鍵域を移動する (トランスポーズ)

鍵域を移動 (移調) して演奏することができます。
中央 C (C4) の鍵盤を、どの音程に移動するか設定します。

1. [TRANSCOPE] ボタンを押しながら、[-] または [+] ボタンを押します。



ディスプレイにトランスポーズの設定が表示されます。



設定値	C0 ~ C8 (半音単位)
-----	----------------

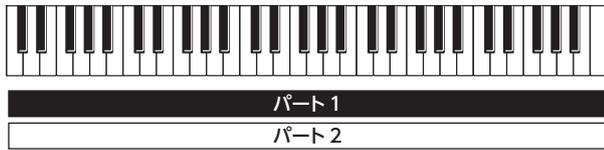
メモ

- 値が「C4」以外に設定されていると、[TRANSCOPE] ボタンが点灯します。
- [TRANSCOPE] ボタンを押しながら [-] または [+] ボタンを押し続けると、設定値が早送り切り替わり、各オクターブの C の音程でいったん止まります。
- [TRANSCOPE] ボタンを押しながら [-] と [+] ボタンを同時に押すと、値が「C4」に戻ります。
- トランスポーズの設定が表示されている間は、[VALUE] ダイヤルを回して値を変えることもできます。
- トランスポーズはドラム・キットには効きません。

2つの音色を組み合わせる

2つの音色を重ねて演奏する(デュアル)

2つの音色を重ねて鳴らすことを「デュアル」といいます。
 ※オルガン音色同士を重ねて鳴らすことはできません。

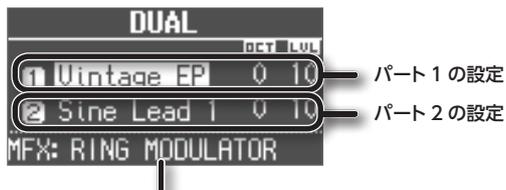


ピアノ音色/シンセサイザー音色を組み合わせる



1. ピアノ・セクションとシンセサイザー・セクションから、2つの音色ボタンを同時に押します。

選んだ音色ボタンが点灯し、DUAL画面が表示されます。



マルチ・エフェクトのタイプ (P.47)

メモ

- MODE [PIANO] ボタンとMODE [SYNTH] ボタンを同時に押して、デュアルにすることもできます。
- 先に押したボタンの音色がパート1に割り当てられます。

音色を変更する

以下の手順で、音色を変更することができます。

2. 音色を選びます。

1. CURSOR [▲] [▼] ボタンを押して、変更したい音色を選びます。
2. [VALUE] ダイアルを回して音色を選びます。

メモ

点灯している音色ボタンを押すと、同じ音色ボタンの内の2つの音色を組み合わせることができます。

3. 各パートの音量を調節します。

LEVEL [▲] [▼] ボタンを押して、音量 (0 ~ 12) を調節します。

メモ

同じセクション内の音色同士を組み合わせている場合は、カーソルで選ばれている音色の音量が変化します。

4. 各パートのオクターブを設定します。

CURSOR [▲] [▼] ボタンで設定したい音色を選び、OCTAVE [DOWN] [UP] ボタンでオクターブの設定をします。

オルガン音色とピアノ音色/シンセサイザー音色を組み合わせる



1. MODE [ORGAN] ボタンと、ピアノ・セクションまたはシンセサイザー・セクションの音色ボタンを同時に押します。

MODE [ORGAN] ボタンと選んだ音色ボタンが点灯し、DUAL画面が表示されます。



メモ

- MODE [ORGAN] ボタンと、MODE [PIANO] ボタンまたはMODE [SYNTH] ボタンを同時に押して、デュアルにすることもできます。
- 先に押したボタンの音色がパート1に割り当てられます。

音色を変更する

以下の手順で、音色を変更することができます。

2. 音色を選びます。

1. CURSOR [▲] [▼] ボタンを押して、パートを選びます。
2. [VALUE] ダイアルで音色を選びます。

3. 音量を調節します。

ボタン/パー	説明
LEVEL [▲] [▼] ボタン	ピアノ音色またはシンセサイザー音色の音量 (0 ~ 12) を調節します。
[LEVEL] バー	オルガン音色の音量 (0 ~ 12) を調節します。

4. オクターブを設定します。

OCTAVE [DOWN] [UP] ボタンを押して、ピアノ音色またはシンセサイザー音色のオクターブの設定をします。

デュアルを解除する

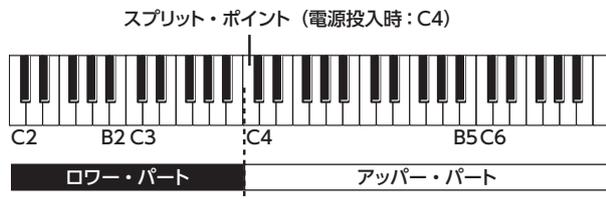
以下の操作で、デュアルを解除することができます。

操作	説明
MODE ボタンのいずれかを押す	押したボタンのセクションに割り当てられていた音色が鳴るようになります。同じセクション内の音色同士を組み合わせていた場合は、パート1に割り当てられていた音色が鳴るようになります。
[EXIT] ボタンを押す	パート1に割り当てられていた音色が全鍵域で鳴るようになります。
点灯していない音色ボタンを押す	選んだ音色が鳴るようになります。

右手と左手で違う音色を演奏する (スプリット)

右手と左手で違う音色を使って演奏することを「スプリット」といいます。

鍵盤を2つの鍵域に分けて、右側をアッパー・パート、左側をローワー・パートといいます。また、鍵盤が分かれる位置を「スプリット・ポイント」(P.32)といいます。



デュアルの音色を左右の鍵域に振り分ける

一度重ねた2つの音色を、左右の鍵域に振り分けることができます。

- 2つの音色ボタンまたはMODEボタンを同時に押して、デュアルの設定にします (P.28)。

メモ

先に押したボタンの音色がパート1に割り当てられます。

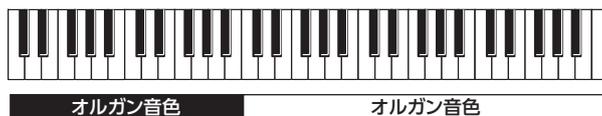
- SYNTH [SPLIT] ボタンを押して、点灯させます。

デュアル設定時にパート1に設定されていた音色がアッパー・パートに、パート2に設定されていた音色がローワー・パートに割り当てられます。

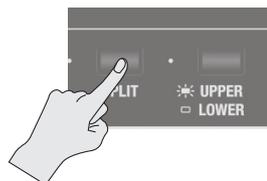
メモ

オルガン音色とデュアル設定時は、ORGAN [SPLIT] ボタンを使うこともできます。

2つのオルガン音色を組み合わせる



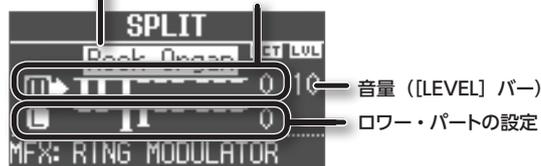
- オルガン音色を選びます (P.13)。
- ORGAN [SPLIT] ボタンを押して、点灯させます。



SPLIT 画面が表示されます。

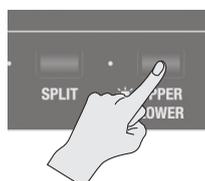
オルガン音色のタイプ名

アッパー・パートの設定



マルチ・エフェクトのタイプ (P.47)

- [UPPER/LOWER] ボタンを押して、音色を変化させたいパートを選びます。



[UPPER/LOWER] ボタン	選ばれるパート
点灯 (UPPER)	アッパー・パート
消灯 (LOWER)	ローワー・パート

選んだパートにカーソルが移動します。



- ハーモニック・バーをスライドさせ、オルガン音色を作ります。

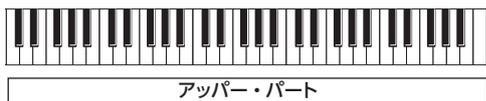
パネル上のハーモニック・バーに連動して、選んだパートの音色が変化します。



2段鍵盤にして演奏する

本機のMIDI IN端子にMIDIキーボード(別売)を接続することで、2段鍵盤にして演奏することができます。

本機



MIDIキーボード



参照

詳しくは「2段鍵盤にして演奏する」(P.54)をご覧ください。

2つの音色を組み合わせる

メモ

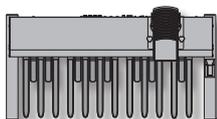
- [PERCUSSION] ボタンは、アッパー・パートのオルガン音色にのみ有効です。
- オルガンのタイプが Rock Organ または Jazz Organ の場合、ビブラート効果やコーラス効果を加けるパートを設定することができます (Vibrato/Chorus Part : P.45)。オルガンのタイプが Transistor Organ の場合は、この設定にかかわらず、アッパー・パートとローワー・パート両方に効果がかかります。
- [LEVEL] バーで、オルガン音色の音量を調節できます。[LEVEL] バーは、オルガンのアッパー/ローワー/ペダル・パートすべてに効きます。

※ すべてのパートが同じオルガン・タイプになります。

ペダル鍵盤 (ペダル・パート) で演奏する

ペダル鍵盤 (別売: PK-9) を接続して、オルガンのペダル・パートを演奏することができます。

※ ペダル・パートは、オルガンのタイプに Rock Organ または Jazz Organ を選んでいるときのみ有効です。



ペダル・パートの
オルガン音色

1. ペダル鍵盤 (別売: PK-9) を PK IN 端子に接続します (P.8)。
2. オルガン音色を選びます (P.13)。

ペダル・パートの音色を作る

3. ORGAN [SPLIT] ボタンを押します。

SPLIT 画面が表示されます。



4. [UPPER/LOWER] ボタンを数回押して、ペダル・パートにカーソルを移動します。



5. ハーモニック・バーをスライドさせ、ペダル・パートの音色を作ります。

メモ

ハーモニック・バーの左から 1 番目 (16') と 3 番目 (8') のバーで、ペダル・パートの音色を作ることができます。

ペダル・パートの音色を左手で演奏する (手ベース)

ペダル鍵盤で演奏するオルガンのペダル・パート (ベース) を左手で演奏することを、「手ベース」といいます。ペダル・パートのオルガン音色をローワー・パートに割り当てて、手ベースで演奏することができます。



ペダル・パートの
オルガン音色

オルガン音色

1. オルガン音色を選びます (P.13)。
2. ORGAN [SPLIT] ボタンを押しながら、[UPPER/LOWER] ボタンを押します。

ペダル・パートの音色がローワー・パートに割り当てられます。

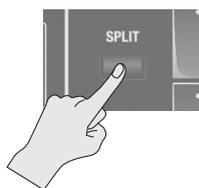


※ このとき、ローワー・パートのオルガン音色は鳴らすことができません。また、ペダル鍵盤を弾いても音は鳴りません。

ピアノ音色とシンセサイザー音色を組み合わせる



1. ピアノ音色またはシンセサイザー音色を選びます (P.14)。
2. SYNTH [SPLIT] ボタンを押して、点灯させます。



SPLIT 画面が表示されます。



各パートの音色を変更する

手順1で選んだ音色は、アッパー・パートに割り当てられます。以下の操作で、各パートの音色を変更することができます。同じ音色ボタン内の、2つの音色を組み合わせることもできます。

3. 各パートの音色を選びます。
 1. CURSOR [▲] [▼] ボタンを押して、パートを選びます。
 2. 音色ボタンと [VALUE] ダイアルで、各パートの音色を選びます。
 3. [EXIT] ボタンを押して、SPLIT 画面に戻ります。
4. 各パートの音量を調節します。

LEVEL [▲] [▼] ボタンを押して、音量 (0 ~ 12) を調節します。

メモ

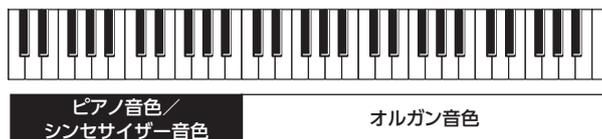
同じセクション内の音色同士を組み合わせている場合は、カーソルで選ばれている音色の音量が変化します。
5. 各パートのオクターブを設定します。

CURSOR [▲] [▼] ボタンでパートを選び、OCTAVE [DOWN] [UP] ボタンでオクターブの設定をします。

オルガン音色とピアノ音色 / シンセサイザー音色を組み合わせる



または



1. 2つのオルガン音色を組み合わせる設定、またはピアノ音色とシンセサイザー音色を組み合わせる設定にします (P.29、P.31)。
2. パートを選んで、音色を変更します。
 1. CURSOR [▲] [▼] ボタンまたは [UPPER/LOWER] ボタンを押して、パートを選びます。
 2. [TYPE] ボタン、音色ボタン、[VALUE] ダイアルで音色を選びます。
 3. [EXIT] ボタンを押して、SPLIT 画面に戻ります。
3. 音量を調節します。

ボタン / パー	説明
LEVEL [▲] [▼] ボタン	ピアノ音色またはシンセサイザー音色の音量 (0 ~ 12) を調節します。
[LEVEL] パー	オルガン音色の音量 (0 ~ 12) を調節します。

4. オクターブを設定します。

CURSOR [▲] [▼] ボタンでパートを選び、OCTAVE [DOWN] [UP] ボタンでオクターブの設定をします。

メモ

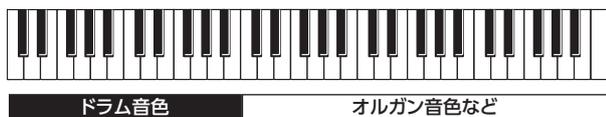
[UPPER/LOWER] ボタンでオルガン音色が割り当てられていないパートを選び、ハーモニック・パーを下げると、オルガン音色を重ねることもできます。

設定例:



ドラム音色をロー・パートで鳴らす

ロー・パートでドラム音色を鳴らしながら、アップ・パートで他の音色を演奏することができます。

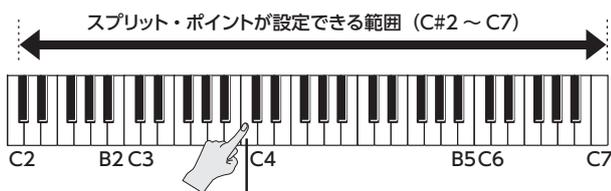


1. スプリットの設定をします (P.29)。
2. [DRUM] ボタンを押して、点灯させます。
自動的にロー・パートがドラム音色に入れ替わります。
※ アップ・パートの音色の設定は変わりません。

鍵盤の分かれる位置 (スプリット・ポイント) を変える

スプリットのときの、鍵盤の分かれる位置 (スプリット・ポイント) を変えます。

VR-09



スプリット・ポイント (電源投入時: C4、右側の鍵盤に含まれる)

VR-730



スプリット・ポイント (電源投入時: C4、右側の鍵盤に含まれる)

1. ORGAN [SPLIT] ボタンまたは SYNTH [SPLIT] ボタンを押して、点灯させます。
2. 手順 1 で押した [SPLIT] ボタンを押しながら、スプリット・ポイントにする鍵を押します。
押した鍵がスプリット・ポイントになります。アップ・パートの一番下の鍵がスプリット・ポイントです。



メモ

- スプリット・ポイント画面が表示されているとき、[VALUE] ダイアルを回して値を変えることもできます。
- オルガン・セクション、シンセサイザー・セクションのいずれの [SPLIT] ボタンでも、スプリット・ポイントの設定ができます。
- スプリット・ポイントは、組み合わせる音色にかかわらず共通の設定値となります。

スプリットを解除する

1. [EXIT] ボタンまたは点灯している [SPLIT] ボタンを押して、消灯させます。

スプリットが解除されます。
アップ・パートに割り当てられていた音色が、全鍵域で鳴るようになります。

メモ

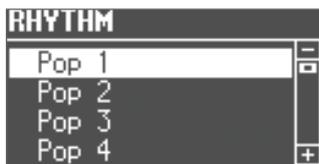
MODE ボタンのいずれかを押して、スプリットを解除することもできます。

リズム・パターンに合わせて演奏する

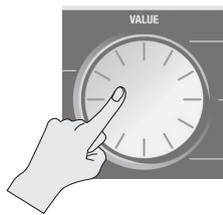
リズム・パターンを選ぶ／鳴らす

本機は、リズム・パターンを鳴らしながら演奏することができます。

1. [SONG/RHYTHM] ボタンを数回押して、RHYTHM 画面を表示させます。



2. [VALUE] ダイアルを回して、リズム・パターンを選びます。



3. [▶/■] (START/STOP) ボタンを押します。



リズム・パターンが鳴り始めます。

4. もう一度 [▶/■] (START/STOP) ボタンを押すと、リズム・パターンが停止します。

参照

リズム・パターンについて詳しくは、『データ・リスト』(PDF) の『リズム・パターン一覧』をご覧ください。
『データ・リスト』(PDF) は、ローランドのホームページからダウンロードすることができます。
<http://www.roland.co.jp/manuals/>

リズム・パターンとは

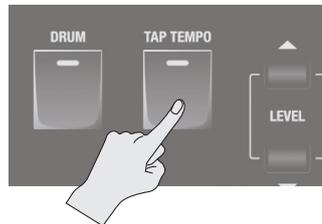
ドラムやパーカッションなど、リズム楽器の決まったフレーズのことを「リズム・パターン」といいます。
本機には、さまざまなジャンルのリズム・パターンが内蔵されています。

リズム・パターンのテンポを変える

リズム・パターンのテンポを設定します。
次の機能のテンポは、この設定値に従います。

- ・ 曲 (SMF 形式) の録音／再生
- ・ テンポに同期するエフェクト (P.47)

1. [TAP TEMPO] ボタンを押します。



TEMPO 画面が表示されます。



2. [TAP TEMPO] ボタンを、変更したいテンポの間隔で数回押します。

ボタンを押した間隔でテンポが決まり、テンポの値が設定されます。

設定値	20 ~ 500
-----	----------

メモ

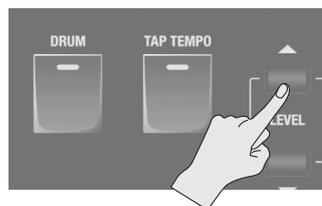
- ・ TEMPO 画面が表示されているときは、[VALUE] ダイアルを回して値を変えることもできます。
- ・ TEMPO 画面が表示されている間に [TRANSPOSE] ボタンを押すと、TEMPO 画面が保持されます。[EXIT] ボタンを押すと、元の画面に戻ります。
- ・ テンポの値は、レジストレーションに登録できます (P.16)。

リズム・パターンの音量を調節する

リズム・パターンの音量を調節することができます。
次の機能の音量は、この設定値に従います。

- ・ ドラム音色、効果音の音量
- ・ 曲 (SMF、オーディオ) 再生時の音量
- ・ D-BEAM コントローラーで鳴らす効果音の音量

1. DRUM LEVEL [▲] [▼] ボタンを押します。



演奏を録音する

本機では、演奏を録音することができます。
録音した演奏を再生して自分の演奏を確認したり、録音した演奏に合わせて演奏したりすることができます。

本機では SMF とオーディオの録音ができます。

※ 録音するには、USB メモリー（別売）を USB MEMORY 端子に接続しておく必要があります（P.6）。

※ USB メモリーは、ローランドが販売しているものを使用してください。それ以外の USB メモリーを使用したときの動作は保証できません。



SMF とオーディオ録音

録音の種類	説明
SMF 録音	「どの位置の鍵盤（音の高さ）を、どのくらいの長さ、強さで弾いたか」などの、音楽の演奏情報を記録したデータとして録音します。
オーディオ録音	音声データとして録音します。録音した曲（WAV ファイル）をパソコンで利用できます。

※ SMF（スタンダード MIDI ファイル）は、メーカーを超えて標準化することを目的として作られた、ミュージックデータの形式です。SMF ミュージックデータは、SMF 形式のミュージックデータの曲集で、鑑賞用、楽器練習用、カラオケ用など幅広いジャンルにわたって発売されています。

録音を始める／止める

5. [▶/■] (START/STOP) ボタンを押します。



録音が始まると、[▶/■] (START/STOP) ボタンが点灯し、録音画面が表示されます。
SMF 録音の場合は小節数、オーディオ録音の場合は録音時間が表示されます。



メモ

SMF 形式で録音する場合は、2 小節のカウント音が鳴ってから録音が始まります。ただし、手順 2 でリズム・パターンを選んだ場合、カウントは鳴りません。

6. [▶/■] (START/STOP) ボタンを押します。

録音が止まり、SAVE SONG 画面が表示されます。



録音した演奏を保存する

7. 曲に名前をつけます。

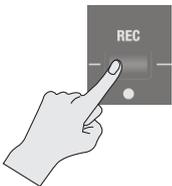
ボタン/ダイヤル	操作内容
CURSOR [▲] [▼] ボタン	変更する文字を選びます。
[VALUE] ダイヤル	文字を変更します。
MODE [ORGAN] (Del) ボタン	文字を削除します。
MODE [PIANO] (Space) ボタン	空白を挿入します。

曲を保存しない場合は、[EXIT] ボタンを押します。

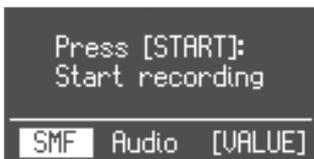
録音する

録音の準備

1. USB メモリー（別売）を USB MEMORY 端子に接続します（P.6）。
2. 必要に応じて、録音するときに鳴らすリズム・パターン（P.33）を選んだり、メトロノーム（P.51）を設定したりします。
3. [●] (REC) ボタンを押します。



[●] (REC) ボタンが点灯、[▶/■] (START/STOP) ボタンが点滅し、録音待機状態になります。



4. [VALUE] ダイヤルを回して、録音形式を選びます。

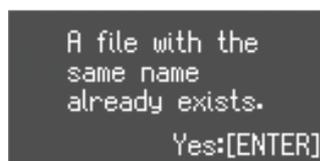
設定値	説明
SMF	SMF 録音します。
Audio	オーディオ録音します。

8. [ENTER] ボタンまたは MODE [SYNTH] (Save) ボタンを押します。

曲が保存されます。

※ オーディオ形式で録音した場合、同じ名前の曲が USB メモリー内にあると、保存できません。

以下の画面が表示されたら、[ENTER] ボタンを押して名前をつけ直してください。



ご注意!

ディスプレイに「Executing...」と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、USB メモリーを抜いたりしないでください。

曲を再生する

USB メモリーに保存されている曲を再生することができます。

1. USB メモリー (別売) を、USB MEMORY 端子に接続します (P.6)。
2. [SONG/RHYTHM] ボタンを数回押して、SONG 画面を表示させます。



3. [VALUE] ダイアルを回して、曲を選びます。

メモ

- フォルダーの中にある曲を選ぶときは、以下の操作をします。
 - フォルダーを移動するには、[VALUE] ダイアルで「」を選んでから、[ENTER] ボタンまたは [▶/■] (START/STOP) ボタンを押します。
 - フォルダー内の曲は、[VALUE] ダイアルで選びます。
 - フォルダーから抜けるには、[VALUE] ダイアルで「」を選んでから、[ENTER] ボタンまたは [▶/■] (START/STOP) ボタンを押します。

4. [▶/■] (START/STOP) ボタンを押します。

曲の再生が始まります。
SMF 形式の曲の場合は小節数が、オーディオ形式の曲の場合は再生時間が表示されます。



5. [▶/■] (START/STOP) ボタンを押します。

曲の再生が停止します。

メモ

- SMF 形式の曲は、テンポを変えて再生することができます (P.33)。
- 再生時の音量は、DRUM LEVEL [▲] [▼] ボタンで調節できます (P.33)。
本機で SMF 録音した曲は、各セクションの LEVEL [▲] [▼] ボタン、または [LEVEL] バーで音量を調節できます。

ボタンのはたらき

[◀◀/▶▶] ボタン	曲の先頭に戻ります。曲の頭で押すと、前の曲の頭に移動します。ボタンを長めに押すと、曲を早戻しします。
[▶/▶▶] ボタン	次の曲に移動します。ボタンを長めに押すと、曲を早送りします。
[▶/■] (START/STOP) ボタン	曲を再生/停止します。

曲の名前を変更する

曲の名前を変更することができます。

※ USB メモリー内のファイル名に日本語を使用している場合は、名前を変更することはできません。

1. USB メモリー（別売）を、USB MEMORY 端子に接続します（P.6）。
2. [SONG/RHYTHM] ボタンを数回押して、SONG 画面を表示させます。



3. [VALUE] ダイアルを回して、曲を選びます。
4. OCTAVE [UP] ボタンを押します。



RENAME 画面が表示されます。



中止する場合は [EXIT] ボタンを押します。

5. 曲の名前を変更します。

ボタン/ダイヤル	操作内容
CURSOR [▲] [▼] ボタン	変更する文字を選びます。
[VALUE] ダイアル	文字を変更します。
MODE [ORGAN] (Del) ボタン	文字を削除します。
MODE [PIANO] (Space) ボタン	空白を挿入します。

6. [ENTER] ボタンまたは MODE [SYNTH] (Save) ボタンを押します。

曲の名前が変更されます。

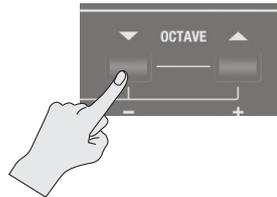
曲を削除する

USB メモリーに保存した曲を削除することができます。

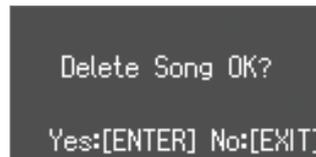
1. USB メモリー（別売）を、USB MEMORY 端子に接続します（P.6）。
2. [SONG/RHYTHM] ボタンを数回押して、SONG 画面を表示させます。



3. [VALUE] ダイアルを回して、曲を選びます。
4. OCTAVE [DOWN] ボタンを押します。



確認メッセージが表示されます。



中止する場合は [EXIT] ボタンを押します。

5. [ENTER] ボタンを押します。

曲が削除されます。

ご注意!

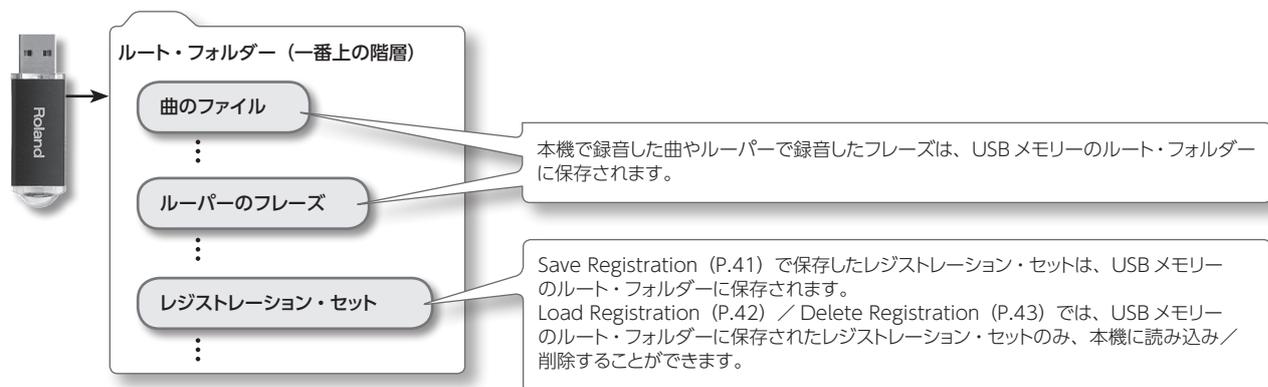
ディスプレイに「Executing...」と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、USB メモリーを抜いたりしないでください。



USB メモリー内に保存されるデータ

USB メモリーには、以下のデータが保存されます。

- 本機で録音した曲 (P.34)
- ルーパーで録音したフレーズ (P.38)
- レジストレーション・セット (P.41)



パソコンの SMF / オーディオ・ファイルを再生する

USB メモリーにコピーしたパソコンのオーディオ・ファイル (WAV、MP3、AIFF) や SMF ファイルを再生することができます。SMF / オーディオ・ファイルは、USB メモリーのルート・フォルダー、または USB メモリーにフォルダーを作成してその中にコピーしてください。



メモ

- ファイル名やフォルダー名には半角の英数字 (1 バイト) を使ってください。
- 1 つのフォルダーにつき、最大 99 ファイルまで認識します。

再生できる SMF / オーディオ・ファイル

SMF	フォーマット	0 または 1 ※ SMF フォーマット 1 で 16トラック以上あるファイルの場合、すべてのトラックが正しく再生されないことがあります。	
	ファイル・サイズ	最大約 240KB (SMF の内容によって変化します)	
	システム・エクスクルーシブ	パケットのサイズが 512byte 以下のもの	
オーディオ	WAV / AIFF	サンプリング周波数	44.1kHz
		ビット数	16ビット
	MP3	フォーマット	MPEG-1 audio layer 3
		ビット・レート	32 / 40 / 48 / 56 / 64 / 80 / 96 / 112 / 128 / 160 / 192 / 224 / 256 / 320kbps、VBR (Variable Bit Rate)

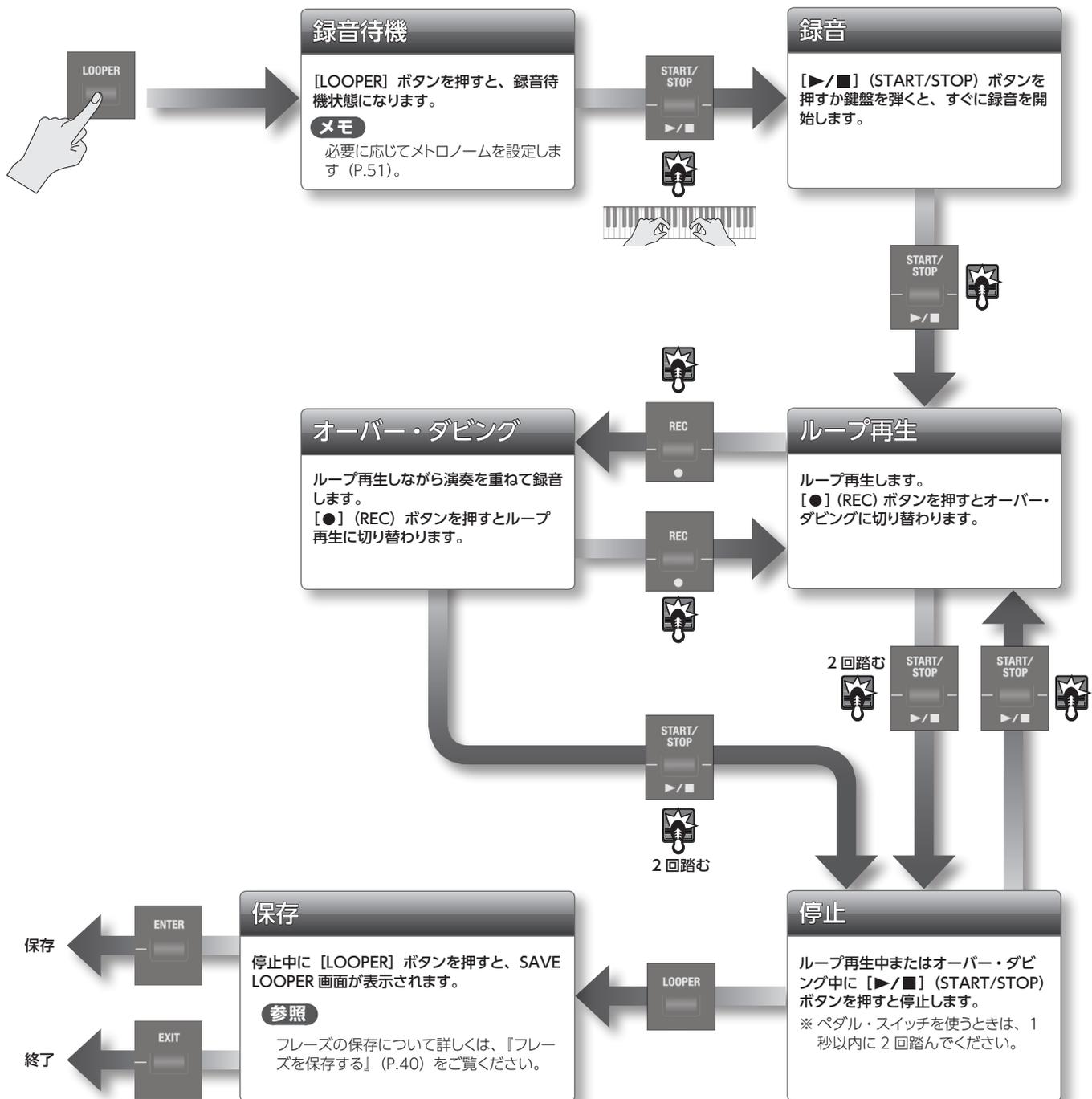
ルーパーを使う

ルーパーは、リアルタイムに録音／再生をしながら音を重ねる機能です。
録音したフレーズをバックにしなが、演奏したりエフェクトの調節をしたりするなど、さまざまなパフォーマンスができます。

※ 最大録音時間は、約 20 秒です。

※ ルーパーでは、Audio Rec Gain (P.51) の値は常に 0dB になります。

ルーパーで録音する



メモ



のついている手順では、DAMPER 端子または EXPRESSION PEDAL 端子に接続したペダル・スイッチ (別売: DP-2) を使って操作することもできます。

ペダル・スイッチを使うときは、Damper Assign (P.48) または Expression Assign (P.49) の設定を「LOOPER」にしてください。

リズム・パターンを鳴らしながら録音する

1. [SONG/RHYTHM] ボタンを数回押して、RHYTHM 画面を表示させます。
2. [VALUE] ダイアルを回して、リズム・パターンを選びます。
3. 『ルーパーで録音する』(P.38) の手順に従って、録音します。

録音開始と同時にリズム・パターンが鳴り始めます。
録音終了後、ループ再生を停止するとリズム・パターンも停止します。

※リズム・パターンは録音されますが、オーバー・ダビングはされません。

メモ

録音前にリズム・パターンのテンポを設定しておくことができます (P.33)。

ご注意!

ルーパーに録音済みのデータがある場合、リズム・パターンは録音されません。『フレーズを消去する』(P.39) の手順でフレーズを消去してください。

オーディオ・ファイルを読み込んで再生／録音する

USB メモリーのオーディオ・ファイルを本機に読み込んで、ルーパーで再生／録音することができます。

メモ

読み込めるオーディオ・ファイルの形式：
WAV / AIFF、44.1kHz、16ビット

1. [SONG/RHYTHM] ボタンを数回押して、SONG 画面を表示させます。
2. [VALUE] ダイアルでオーディオ・ファイルを選び、[LOOPER] ボタンを押します。

確認メッセージが表示されます。

```
Load to looper OK?
Yes:[ENTER] No:[EXIT]
```

中止する場合は [EXIT] ボタンを押します。

メモ

前回録音したフレーズが本機に記憶されていると、以下の画面が表示されます。

```
Load to looper
Overwrite OK?
Yes:[ENTER] No:[EXIT]
```

オーディオ・ファイルを読み込むと、前回録音したフレーズは消去されます。
フレーズを残しておきたい場合は、[EXIT] ボタンを押して、『フレーズを保存する』(P.40) の手順でフレーズを USB メモリーに保存してください。

3. [ENTER] ボタンを押します。
オーディオ・ファイルが読み込まれます。

4. 『ルーパーで録音する』(P.38) の「ループ再生」または「オーバー・ダビング」以降の手順に従って、再生／録音します。

フレーズを消去する

ルーパーで録音したフレーズを消去します。

1. LOOPER 画面で、[SONG/RHYTHM] ボタンを押します。
確認メッセージが表示されます。

```
Clear Looper OK?
Yes:[ENTER] No:[EXIT]
```

中止する場合は [EXIT] ボタンを押します。

2. [ENTER] ボタンを押します。
フレーズが消去され、録音待機状態になります。

フレーズを保存する

ルーパーで録音したフレーズを、オーディオ・データとして USB メモリーに保存することができます。

※ ルーパーで録音したフレーズを保存するときは、あらかじめ USB メモリーを USB MEMORY 端子に接続してください。

1. ループ再生を停止します (P.38)。
2. [LOOPER] ボタンを押します。



SAVE LOOPER 画面が表示されます。



フレーズを USB メモリーに保存しない場合は、[EXIT] ボタンを押して SAVE LOOPER 画面を抜けます。

メモ

保存せずにルーパーを終了した場合も、電源を切るまでは本機にフレーズが記憶されています。

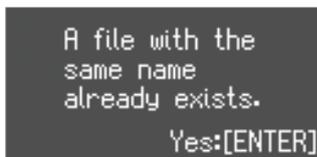
3. フレーズに名前をつけます。

ボタン/ダイヤル	操作内容
CURSOR [▲] [▼] ボタン	変更する文字を選びます。
[VALUE] ダイヤル	文字を変更します。
MODE [ORGAN] (Del) ボタン	文字を削除します。
MODE [PIANO] (Space) ボタン	空白を挿入します。

4. [ENTER] ボタンまたは MODE [SYNTH] (Save) ボタンを押します。

フレーズが保存されます。

※ 同じ名前の曲が USB メモリー内にあると、保存できません。以下の画面が表示されたら、[ENTER] ボタンを押して名前をつけ直してください。



ご注意!

ディスプレイに「Executing...」と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、USB メモリーを抜いたりしないでください。

便利な機能

一定時間が経過すると自動で電源が切れるようにする (Auto Off)

本機は演奏や操作をやめてから一定時間経過すると、自動的に電源が切れます (工場出荷時の設定)。自動で電源を切る必要がない場合は、以下の手順で「Auto Off」を「OFF」に設定してください。

1. [MENU] ボタンを押します。
2. [VALUE] ダイアルを回して、「System」を選びます。
3. [ENTER] ボタンを押します。
4. CURSOR [▲] [▼] ボタンを押して、「Auto Off」を選びます。



5. [VALUE] ダイアルを回して、設定値を変えます。

設定値	説明
OFF	自動で電源を切らない設定にします。
10 min	10 分間操作をしないと、自動で電源が切れます。
30 min	30 分間操作をしないと、自動で電源が切れます。
240 min (初期値)	240 分 (4 時間) 間操作をしないと、自動で電源が切れます。

6. [EXIT] ボタンを数回押して、操作を終えます。

ディスプレイの明るさを調節する (LCD Contrast)

ディスプレイの明るさを調節することができます。

1. [MENU] ボタンを押します。
2. [VALUE] ダイアルを回して、「System」を選びます。
3. [ENTER] ボタンを押します。
4. CURSOR [▲] [▼] ボタンを押して、「LCD Contrast」を選びます。
5. [VALUE] ダイアルを回して、設定値を変えます。

設定値	0 (暗い) ~ 30 (明るい)
-----	-------------------

6. [EXIT] ボタンを数回押して、操作を終えます。

レジストレーションを USB メモリーに保存する (Save Registration)

本機に登録されているすべてのレジストレーションをひとつのセット (レジストレーション・セット) として、USB メモリーに保存することができます。

1. USB メモリー (別売) を USB MEMORY 端子に接続します (P.6)。
2. [MENU] ボタンを押します。
3. [VALUE] ダイアルを回して、「Media Utility」を選びます。
4. [ENTER] ボタンを押します。
5. CURSOR [▲] [▼] ボタンを押して、「Save Registration」を選びます。

SAVE REGISTRATION 画面が表示されます。



7. [VALUE] ダイアルを回して、保存先の番号を選びます。
レジストレーション・セット名が表示されている番号には、すでにレジストレーション・セットが保存されています。保存済みのレジストレーション・セットを選んで保存すると、レジストレーション・セットは上書きされます。上書きしたくないときは、保存先の欄に「-----」と表示されている番号を選んでください。
8. [ENTER] ボタンを押します。
すでにレジストレーション・セットが保存されている番号を選ぶと、「Overwrite Registration OK?」と表示されます。上書きする場合は [ENTER] ボタンを押します。番号を選び直す場合は [EXIT] ボタンを押します。
9. レジストレーション・セットに名前をつけます。

ボタン/ダイアル	操作内容
CURSOR [▲] [▼] ボタン	変更する文字を選びます。
[VALUE] ダイアル	文字を変更します。
MODE [ORGAN] (Del) ボタン	文字を削除します。
MODE [PIANO] (Space) ボタン	空白を挿入します。

10. [ENTER] ボタンまたは MODE [SYNTH] (Save) ボタンを押します。
レジストレーション・セットが保存されます。

ご注意!

ディスプレイに「Executing...」と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、USB メモリーを抜いたりしないでください。

11. [EXIT] ボタンを数回押して、操作を終えます。

USB メモリーに保存したレジストレーションを読み込む (Load Registration)

USB メモリーに保存したレジストレーション・セットを、本機に読み込むことができます。

ご注意!

レジストレーション・セットを読み込むと、本機に登録されているすべてのレジストレーションは上書きされ、消えてしまいます。レジストレーションを消したくない場合は、USB メモリーに保存してください (P.41)。

1. USB メモリー (別売) を USB MEMORY 端子に接続します (P.6)。
2. [MENU] ボタンを押します。
3. [VALUE] ダイアルを回して、「Media Utility」を選びます。
4. [ENTER] ボタンを押します。
5. CURSOR [▲] [▼] ボタンを押して、「Load Registration」を選びます。
6. [ENTER] ボタンを押します。
LOAD REGISTRATION 画面が表示されます。



7. [VALUE] ダイアルを回して、読み込むレジストレーション・セットを選びます。
中止する場合は [EXIT] ボタンを押します。
8. [ENTER] ボタンを押します。
レジストレーション・セットが読み込まれます。

ご注意!

ディスプレイに「Executing...」と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、USB メモリーを抜いたりしないでください。

9. [EXIT] ボタンを数回押して、操作を終わります。

レジストレーションをダウンロードすることができます

音色ライブラリー・サイト Axial にある多彩な種類のレジストレーションをダウンロードして、本機でお使いいただけます。

詳しくは、Axial サイトをご覧ください。
<http://axial.roland.com/>



USB メモリーに保存したレジストレーションを1つずつ読み込む (Load One Regist)

USB メモリーに保存したレジストレーションを、1つずつ本機に読み込むことができます。

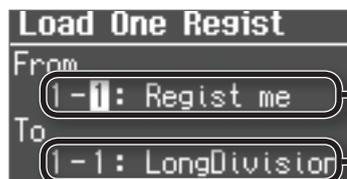
ご注意!

レジストレーションを読み込むと、読み込み先のレジストレーションは上書きされ、消えてしまいます。レジストレーションを消したくない場合は、USB メモリーに保存してください。詳しくは、『レジストレーションを USB メモリーに保存する (Save Registration)』 (P.41) をご覧ください。

1. USB メモリー (別売) を USB MEMORY 端子に接続します (P.6)。
2. [MENU] ボタンを押します。
3. [VALUE] ダイアルを回して、「Media Utility」を選びます。
4. [ENTER] ボタンを押します。
5. CURSOR [▲] [▼] ボタンを押して、「Load One Regist」を選びます。
6. [ENTER] ボタンを押します。
LOAD ONE REGIST 画面が表示されます。



7. [VALUE] ダイアルを回して、読み込むレジストレーションがあるレジストレーション・セットを選びます。
8. [ENTER] ボタンを押します。
9. [VALUE] ダイアルとカーソル・ボタンで、読み込み元と読み込み先のレジストレーション番号を選びます。



読み込み元のレジストレーション

読み込み先のレジストレーション

10. [ENTER] ボタンを押します。
レジストレーションが読み込まれます。

ご注意!

ディスプレイに「Executing...」と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、USB メモリーを抜いたりしないでください。

11. [EXIT] ボタンを数回押して、操作を終わります。

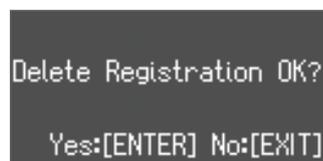
USBメモリーに保存したレジストレーションを削除する (Delete Registration)

USBメモリーに保存したレジストレーション・セットを削除することができます。

1. USBメモリー (別売) を USB MEMORY 端子に接続します (P.6)。
2. [MENU] ボタンを押します。
3. [VALUE] ダイアルを回して、「Media Utility」を選びます。
4. [ENTER] ボタンを押します。
5. CURSOR [▲] [▼] ボタンを押して、「Delete Registration」を選びます。
6. [ENTER] ボタンを押します。
DELETE REGISTRATION 画面が表示されます。



7. [VALUE] ダイアルを回して、削除するレジストレーション・セットを選びます。
8. [ENTER] ボタンを押します。
確認メッセージが表示されます。



中止する場合は [EXIT] ボタンを押します。

9. [ENTER] ボタンを押します。
レジストレーション・セットが削除されます。

ご注意!

ディスプレイに「Executing...」と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、USBメモリーを抜いたりしないでください。

10. [EXIT] ボタンを数回押して、操作を終えます。

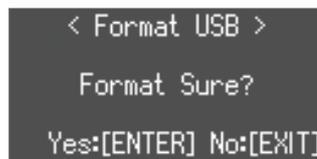
USBメモリーを初期化する (Format USB)

USBメモリーを本機で使用できるようにすることを、「初期化 (フォーマット)」といいます。
USBメモリーと本機のフォーマットが合っていないと、本機で使用することはできません。

ご注意!

大切なデータがUSBメモリーに保存されている場合、この操作をすると、データがすべて失われてしまいます。

1. USBメモリー (別売) を USB MEMORY 端子に接続します (P.6)。
2. [MENU] ボタンを押します。
3. [VALUE] ダイアルを回して、「Media Utility」を選びます。
4. [ENTER] ボタンを押します。
5. CURSOR [▲] [▼] ボタンを押して、「Format USB」を選びます。
6. [ENTER] ボタンを押します。
確認メッセージが表示されます。



中止する場合は [EXIT] ボタンを押します。

7. [ENTER] ボタンを押します。
初期化が実行されます。

ご注意!

ディスプレイに「Executing...」と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、USBメモリーを抜いたりしないでください。

8. [EXIT] ボタンを数回押して、操作を終えます。

シンセサイザー音色を初期化する

Axial から音色ライブラリーを読み込んだり、iPad エディターで音色をエディットしたりすると、プリセットのシンセサイザー音色のパラメーターが書き換わる場合があります。以下の操作で、シンセサイザー音色を工場出荷時の設定に初期化することができます。

1. 初期化したいシンセサイザー音色を選びます。
2. [SYNTH] ボタンを押しながら、[EXIT] ボタンを押します。
[INITIALIZE] と表示され、選んだシンセサイザー音色が初期化されます。

メモ

- シンセサイザー音色は 1 つずつ初期化できます。
- Axial や iPad エディターについて詳しくは、ローランドのホームページをご覧ください。
<https://www.roland.com/jp/>

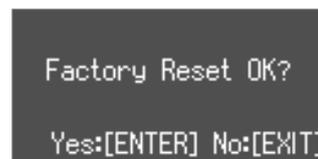
工場出荷時の設定に戻す (Factory Reset)

本機に記憶されているすべての設定を、工場出荷時の状態に戻すことができます。この機能を「ファクトリー・リセット」といいます。

ご注意!

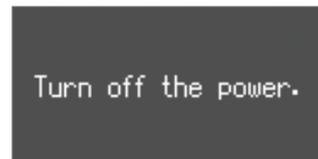
ファクトリー・リセットを実行すると、それまで保存していた設定はすべて消え、工場出荷時の設定に戻ります。レジストレーションの設定も工場出荷時の設定に戻ります。レジストレーションを消したくない場合は、USB メモリーに保存してください (P.41)。

1. [MENU] ボタンを押します。
2. [VALUE] ダイアルを回して、「System」を選びます。
3. [ENTER] ボタンを押します。
4. CURSOR [▲] [▼] ボタンを押して、「Factory Reset」を選びます。
5. [ENTER] ボタンを押します。
確認メッセージが表示されます。



中止する場合は [EXIT] ボタンを押します。

6. [ENTER] ボタンを押します。
ディスプレイに「Turn off the power.」と表示されます。



7. 電源を入れ直します (P.11)。
ファクトリー・リセットが実行されます。

ご注意!

ディスプレイに「Executing...」と表示されている間は、絶対に電源を切らないでください。

メモ

MODE [ORGAN] ボタンを押しながら、[POWER] スイッチを押して電源を入れることで、ファクトリー・リセットを実行することもできます。

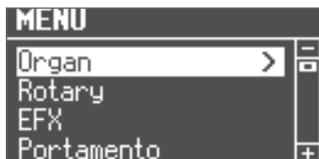
各機能の詳細設定をする（メニュー）

メニューの基本操作

メニューでは、演奏や音色などの設定を変更することができます。

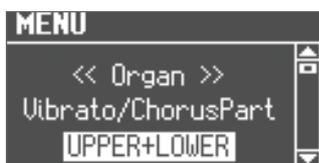
1. [MENU] ボタンを押します。

メニュー画面が表示されます。



2. [VALUE] ダイアルを回して、カテゴリーを選びます。

3. [ENTER] ボタンを押します。



4. CURSOR [▲] [▼] ボタンを押して、変更したいパラメーターを選びます。

メモ

ディスプレイに「Press [ENTER]」と表示されるパラメーターを選んだときは、[ENTER] ボタンを押します。

5. [VALUE] ダイアルを回して、設定値を変えます。

6. [EXIT] ボタンを数回押して、操作を終えます。

カテゴリー	パラメーター	設定値	説明
Organ	Vibrato/Chorus Part	ビブラート効果やコーラス効果をかけるパートを選ぶ (Vibrato/Chorus Part)	
		オルガンのタイプに Rock Organ または Jazz Organ を選んでいるとき、ビブラート効果やコーラス効果 (P.22) をかけるパートを選ぶことができます。	
		UPPER+LOWER	アッパー・パートとローワー・パートに効果をかけます。
		UPPER	アッパー・パートに効果をかけます。
	LOWER	ローワー・パートに効果をかけます。	
	Leakage Level	リーケージ・ノイズの量を設定する (Leakage Level)	
		リーケージ・ノイズ (トーンホイール・オルガン特有のノイズ) の量を設定します。	
		0 ~ 31	
	On Click Level	鍵盤を押したときのクリック音の大きさを設定する (On Click Level)	
		鍵盤を押したときのクリック音の大きさを設定します。	
		0 ~ 63	
	Off Click Level	鍵盤を離したときのクリック音の大きさを設定する (Off Click Level)	
		鍵盤を離したときのクリック音の大きさを設定します。	
		0 ~ 63	



クリック音とは？

鍵盤を押したり離したりするときに出る「アツツ」というノイズです。

初期の伝統的なトーンホイール・オルガンは、鍵盤を押したときや鍵盤から指を離したときに、「クリック」と呼ばれるノイズが発生していました。

当初は欠点とされていたクリック音ですが、ブルースやロックでその独特の音を生かした演奏がなされ、ジャズにおいてももかかせない存在となりました。



カテゴリー	パラメーター	設定値	説明
Organ	Organ Low Gain	低域の増幅／減衰量を設定する (Organ Low Gain)	
		低域の増幅／減衰量を設定します。 -12 ~ 12	
Organ	Organ High Gain	高域の増幅／減衰量を設定する (Organ High Gain)	
		高域の増幅／減衰量を設定します。 -12 ~ 12	
Rotary	Rotary Type	ロータリー効果のタイプを選ぶ (Rotary Type)	
		ロータリー効果のタイプを選びます。	
		TYPE1	高域に伸びがあり、マイルドな回転感の効果です。
		TYPE2	低域が強く、ダイナミックな回転感の効果です。
		TYPE3	TYPE2 よりも、さらに低域と高域が強く、回転感がはっきりした効果です。
	Woofer Accel (*1)	ウーファアの回転周期が変化する速度を設定する (Woofer Accel)	
		回転速度を切り替えたときに、ウーファアの回転周期が変化する速度を設定します。 1 ~ 16	
	Tweeter Accel (*1)	ツイーターの回転周期が変化する速度を設定する (Tweeter Accel)	
		回転速度を切り替えたときに、ツイーターの回転周期が変化する速度を設定します。 1 ~ 16	
	Wf Rise Time (*2)	ウーファアの回転 (SLOW → FAST) が変化する速度を設定する (Wf Rise Time)	
	ウーファアの回転が SLOW → FAST に変化する速度を設定します。 0 ~ 127		
Tw Rise Time (*2)	ツイーターの回転 (SLOW → FAST) が変化する速度を設定する (Tw Rise Time)		
	ツイーターの回転が SLOW → FAST に変化する速度を設定します。 0 ~ 127		
Wf Fall Time (*2)	ウーファアの回転 (FAST → SLOW) が変化する速度を設定する (Wf Fall Time)		
	ウーファアの回転が FAST → SLOW に変化する速度を設定します。 0 ~ 127		
Tw Fall Time (*2)	ツイーターの回転 (FAST → SLOW) が変化する速度を設定する (Tw Fall Time)		
	ツイーターの回転が FAST → SLOW に変化する速度を設定します。 0 ~ 127		
Wf Slow Speed	ウーファアの低速回転時の速度を設定する (Wf Slow Speed)		
	ウーファアの低速回転時の速度を設定します。 0 ~ 127		
Tw Slow Speed	ツイーターの低速回転時の速度を設定する (Tw Slow Speed)		
	ツイーターの低速回転時の速度を設定します。 0 ~ 127		

*1: Rotary Type が [TYPE1] のときに表示されます

*2: Rotary Type が [TYPE2] または [TYPE3] のときに表示されます



メニューの設定手順は P.45 をご覧ください。

カテゴリー	パラメーター	設定値	説明
Rotary	Wf Fast Speed	ウーファースの高速回転時の速度を設定する (Wf Fast Speed) ウーファースの高速回転時の速度を設定します。 0 ~ 127	
	Tw Fast Speed	ツイーターの高速回転時の速度を設定する (Tw Fast Speed) ツイーターの高速回転時の速度を設定します。 0 ~ 127	
EFX	MFX Type	マルチ・エフェクトのタイプを選ぶ (MFX Type) MFX (マルチ・エフェクト) のタイプを選びます。	
		TWIN ROTARY	ロータリー効果 (P.20) と合わせて使うことで、回転スピーカーを 2 台接続したような効果が得られます。
		SMALL PHASER 1	往年のアナログ・フェイザーをシミュレートしたものです。エレクトリック・ピアノに適しています。
		SMALL PHASER 2	SMALL PHASER 1 と SMALL PHASER 2 は、うねりのキャラクターが異なります。
		PHASER	ステレオ仕様のフェイザーです。原音に位相をずらした音を加えてうねらせます。
		STEP PHASER	ステレオ仕様のフェイザーです。フェイザー効果が段階的に変化します。
		TEMPO STEP PHASER	[TAP TEMPO] ボタンで設定したテンポに同期したステップ・フェイザーです。
		CHORUS	ステレオ仕様のコーラスです。
		HEXA-CHORUS	音に厚みと広がりを与える 6 相コーラス (ディレイ・タイムの異なる 6 つのコーラス音が重なる) です。
		FLANGER	ステレオ仕様のフランジャーです (LFO は左右同相)。ジェット機の上昇音/下降音のような金属的な響きが得られます。
		MODULATION D	ディレイ音に揺れが加えられます。
		TREMOLO 1	音量を周期的に動かします。
		TREMOLO 2	TREMOLO 1 と TREMOLO 2 では、キャラクターが異なります。
		T. WAH 1	鍵盤で弾いた音量に応じてフィルターを変化させることで、ワウ効果を得ることができます。
		T. WAH 2	T.WAH 1 よりも T.WAH 2 のほうがワウ効果が強くかかります。
		RING MODULATOR	入力信号に振幅変調 (AM 変調) をかけることによりベルのような音を出すことができます。
		BIT CRASH	音質を粗くします。
		DISTORTION	オーバードライブよりも激しい歪みが得られます。
		SLICER	音を連続的にカットすることで、バッキング・フレーズを刻んでいるような効果を作り出します。特に持続音にかけると効果的です。
		TEMPO SLICER	[TAP TEMPO] ボタンで設定したテンポに同期したスライサーです。
PITCH SHIFTER	ステレオ仕様のピッチ・シフターです。		
OD/Dry Mix Level	オーバードライブにミックスするダイレクト音の音量を設定する (OD/Dry Mix Level) オーバードライブにミックスするダイレクト音の音量を設定します。 0 ~ 12		
	ディレイのタイプを選ぶ (Delay Type) ディレイ・タイプを選びます。		
Delay Type	DELAY	山びこのように音が何度も繰り返されます。	
	TAPE ECHO	リアルなテープ・ディレイ・サウンドが得られる、バーチャル・テープ・エコーです。ローランド RE-201 スペース・エコーの、テープ・エコー部のシミュレートです。	
	REVERSE DELAY	入力された音のリバース音をディレイ音として付加するリバース・ディレイです。	
	3TAP PAN DELAY	中央、左、右の 3 方向にディレイ音が鳴らせます。	
	TEMPO DELAY	[TAP TEMPO] ボタンで設定したテンポに同期したディレイです。 メモ [DELAY] つまみを右に回すほど、フィードバック (繰り返し回数) が大きくなります。	
	TEMPO REVERSE DLY	[TAP TEMPO] ボタンで設定したテンポに同期したリバース・ディレイです。 メモ [DELAY] つまみを右に回すほど、フィードバック (繰り返し回数) が大きくなります。	

はじめに

演奏する

録音する

ルーペ

設定する

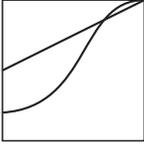
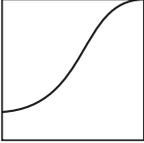
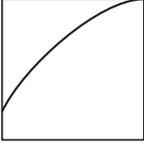
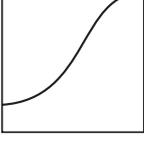
資料



カテゴリー	パラメーター	設定値	説明
EFX	Reverb Type	リバーブのタイプを選ぶ (Reverb Type)	
		リバーブ・タイプを選びます。 音の響きを変えることで、いろいろな場所で演奏している雰囲気味わうことができます。	
		ROOM	部屋の残響
		STAGE	ステージの残響
		HALL	ホールの残響
		CATHEDRAL	大聖堂の残響
		PLATE	金属的で明るい残響
	SPRING	スプリング・リバーブの残響 (ばねを使ったリバーブ効果)	
	Wall Type	ウォール・タイプを変える (Wall Type)	
		リバーブ・タイプを変えることで、いろいろな場所で演奏している雰囲気味わうことができますが、ウォール・タイプ (壁の材質) を変えることで、さらに音の響きかたを調節することができます。 ※ Reverb Type に「SPRING」を選んだ場合、ウォール・タイプの設定は無効になります。	
		DRAPERY	ひだのあるカーテン
		CARPET	カーペット
		ACOUSTIC TILE	防音タイル、吸音タイル
		WOOD	木
BRICK		レンガ	
PLASTER		プラスター、石膏	
CONCRETE BLOCK	コンクリート・ブロック		
MARBLE	大理石		
Portamento	ピアノ音色とシンセサイザー音色に、ポルタメント (はじめに弾いた鍵盤と次に弾いた鍵盤との間の音程をなめらかに変化させる効果) をかけることができます。 参照 詳しくは『音程をなめらかに変化させる (Portamento)』(P.26) をご覧ください。		
Keyboard	Initial Touch	イニシャル・タッチの効き具合を調節する (Initial Touch)	
		イニシャル・タッチ (鍵盤演奏時のペロシティーの効き具合) を設定します。	
	OFF	イニシャル・タッチがオフになります。 鍵を押す強さに関係なく、一定の音量で鳴ります。	
	1 ~ 10	イニシャル・タッチがオンになります。 鍵盤を強く押すほど、大きな音で鳴ります。値が大きいほど、鍵盤を弾いたときの音量の変化幅が大きくなります。	
	PedalBass Mode	ペダル・パート音色の発音のしかたを変える (PedalBass Mode)	
		ペダル・パートの音色を単音で発音 (MONOPHONIC) するか、複音で発音 (POLYPHONIC) するかを設定することができます。 MONOPHONIC、POLYPHONIC	
Solo Mode	パート 2 の発音のしかたを変える (Solo Mode)		
	デュアルにしたときのパート 2 の発音のしかたを変えることができます。 ※ オルガン音色には効きません。		
	OFF	弾いたすべての鍵の音が鳴ります。	
ON	弾いた鍵盤の中で一番高い鍵の音が鳴ります。		
Controller	Damper Assign	ペダル・スイッチの機能を切り替える (Damper Assign)	
		DAMPER 端子に接続したペダル・スイッチに割り当てる機能を選びます。	
		DAMPER	ダンパー・ペダルとして使います。
		REGISTRATION SHIFT	レジストレーションを順番に切り替えます。
		LOOPER	ルーパー機能 (P.38) をコントロールします。
		ROTARY FAST/SLOW	ロータリー・スピードの「FAST」(速い)「SLOW」(遅い) を切り替えます。
RHYTHM START/STOP	リズム・パターン (P.33) をスタート/ストップします。		
SONG START/STOP	[▶/■] (START/STOP) ボタンと同じ機能になります。		



メニューの設定手順は P.45 をご覧ください。

カテゴリー	パラメーター	設定値	説明
Damper Part	ダンパー・ペダルが効くパートを選ぶ (Damper Part)		
	ダンパー・ペダルが効くパートを選ぶことができます。ただし、ドラム・キットには効きません。		
	to ALL	アッパー・パートとローワー・パートに効果をかけます。	
	to LOWER	ローワー・パートに効果をかけます。	
to UPPER	アッパー・パートに効果をかけます。		
Expression Assign	エクスプレッション・ペダルの機能を切り替える (Expression Assign)		
	EXPRESSION PEDAL 端子に接続したエクスプレッション・ペダルやペダル・スイッチに割り当てる機能を選びます。		
	EXPRESSION	エクスプレッション・ペダルとして使います。	
	REGISTRATION SHIFT	レジストレーションを順番に切り替えます。	
	LOOPER	ルーパー機能 (P.38) をコントロールします。	
	ROTARY FAST/SLOW	ロータリー・スピードの「FAST」(速い)「SLOW」(遅い)を切り替えます。	
	RHYTHM START/STOP	リズム・パターン (P.33) をスタート/ストップします。	
SONG START/STOP	[▶/■] (START/STOP) ボタンと同じ機能になります。		
Expression Part	エクスプレッション・ペダルが効くパートを選ぶ (Expression Part)		
	エクスプレッション・ペダルを操作したときの、効果をかけるパートを選ぶことができます。		
	to ALL	すべてのパートに効果をかけます。	
	to UPPER/DUAL1 (*1)	スプリットのときはアッパー・パート、デュアルのときはパート 1 に効果をかけます。	
to LOWER/DUAL2 (*1)	スプリットのときはローワー・パート、デュアルのときはパート 2 に効果をかけます。		
Controller	エクスプレッション・ペダルの効き具合を変える (Expression Curve)		
	エクスプレッション・ペダルを操作したときの、ペダルの効き具合を設定します。		
	1	<p>リズム・パターン</p>  <p>鍵盤演奏</p>	リズム・パターンにはあまりエクスプレッション・ペダルが効きません。リズム・パターンの音量をあまり変えたくないときに便利な設定です。
	2	 <p>リズム・パターン、鍵盤演奏</p>	リズム・パターンも鍵盤での演奏と同じようにエクスプレッション・ペダルが効きます。エクスプレッション・ペダルの角度によって音量が変わりやすいので、強弱のはっきりしたダイナミクスの大きい曲に適しています。
	3	 <p>リズム・パターン、鍵盤演奏</p>	リズム・パターンも鍵盤での演奏と同じようにエクスプレッション・ペダルが効きます。設定 2 よりエクスプレッションのかかり具合がゆるやかなので、強弱のあまり激しくない静かな曲に適しています。
4	<p>リズム・パターン</p>  <p>鍵盤演奏</p>	リズム・パターンにはエクスプレッション・ペダルがまったく効きません。アンサンブルなど、複数の楽器で演奏する場合に適しています。	
Pitch Bend Range	ピッチ・ベンドのレンジを設定する (Pitch Bend Range)		
	ピッチ・ベンドのレンジ (最大変化幅) を設定します (半音単位、最大 1 オクターブ)。		
	1 ~ 12		

*1:ドラム・キットには効きません。



カテゴリー	パラメーター	設定値	説明
Controller	D-BEAM Sensitivity	D-BEAM の感度を調節する (D-BEAM Sensitivity)	
		D-BEAM を操作したときの効き具合を調節します。 値を大きくするほど D-BEAM コントローラーが効きやすくなります。 1 ~ 10	
	Modulation Lever	モジュレーション・レバーでロータリー効果を切り替える (Modulation Lever)	
		モジュレーション・レバーで操作するロータリー効果を選ぶことができます。 ※ オルガン音色のみで演奏するときに有効です。	
OFF		モジュレーション・レバーによるロータリー効果のオン/オフが無効になります。	
ROTARY ON/OFF	モジュレーション・レバーを向こう側に倒すと、ロータリー効果のオン/オフが切り替わります。		
ROTARY BRAKE	Rotary Type (P.46) が「TYPE2」または「TYPE3」のときに、モジュレーション・レバーを向こう側に倒すと、ロータリー効果の回転を止めることができます。オン/オフとは異なり、回転スピーカーの箱鳴り感は保たれます。		
PK Setting	Registration Shift	フットスイッチでレジストレーションを切り替える (Registration Shift)	
		ペダル鍵盤 (別売: PK-9) のフットスイッチに、レジストレーションを順番に切り替える機能を割り当てます。	
		OFF	フットスイッチに割り当てられている機能 (L Foot Switch と R Foot Switch の設定) を使うことができます。
		RIGHT	右フットスイッチはレジストレーション切り替え専用スイッチになります。 ※ 右フットスイッチに割り当てられている機能 (R Foot Switch の設定) は使えません。
	LEFT	左フットスイッチはレジストレーション切り替え専用スイッチになります。 ※ 左フットスイッチに割り当てられている機能 (L Foot Switch の設定) は使えません。	
	L Foot Switch、 R Foot Switch	フットスイッチの機能を切り替える (L Foot Switch、R Foot Switch)	
		ペダル鍵盤 (別売: PK-9) のフットスイッチに割り当てる機能を選びます。	
		ROTARY FAST/SLOW	ロータリー・スピードの「FAST」(速い)「SLOW」(遅い) を切り替えます。
		RHYTHM START/STOP	リズム・パターンをスタート/ストップします。
		SONG START/STOP	[▶/■] (START/STOP) ボタンと同じ機能になります。
		DAMPER OF UPPER	フットスイッチを押している間だけ、アッパー・パートで弾いた音に余韻がつきます。
		DAMPER OF LOWER	フットスイッチを押している間だけ、ローワー・パートで弾いた音に余韻がつきます。
		N. CONTROL1	アコースティック音色にさまざまな効果をかけることで、より豊かでリアルな演奏表現をすることができます。
N. CONTROL2	効果をかけることができるアコースティック音色や効果の詳細について詳しくは、『特定のアコースティック音色に効果をかける』(P.53) をご覧ください。		
OFF	フットスイッチの機能をオフにします。		
N.Control	アコースティック音色に効果をかけるパートを選ぶ (N.Control)		
	ペダル鍵盤 (別売: PK-9) のフットスイッチの操作で、アコースティック音色にける効果 (P.53) が効くパートを選ぶことができます。		
	to ALL	アッパー・パートとローワー・パートに効果をかけます。	
	to LOWER	ローワー・パートに効果をかけます。	
to UPPER	アッパー・パートに効果をかけます。		
Media Utility	Save Registration	本機に登録されているレジストレーションを USB メモリーに保存します。 参照 詳しくは『レジストレーションを USB メモリーに保存する (Save Registration)』(P.41) をご覧ください。	
	Load Registration	USB メモリーに保存されているレジストレーションを本機に読み込みます。 参照 詳しくは『USB メモリーに保存したレジストレーションを読み込む (Load Registration)』(P.42) をご覧ください。	
	Load One Regist	USB メモリーに保存されているレジストレーションを、1 つずつ本機に読み込みます。 参照 詳しくは『USB メモリーに保存したレジストレーションを 1 つずつ読み込む (Load One Regist)』(P.42) をご覧ください。	
	Delete Registration	USB メモリーに保存されているレジストレーションを削除します。 参照 詳しくは『USB メモリーに保存したレジストレーションを削除する (Delete Registration)』(P.43) をご覧ください。	



メニューの設定手順は P.45 をご覧ください。

各機能の詳細設定をする (メニュー)

カテゴリー	パラメーター	設定値	説明
Media Utility	Format USB		USB メモリーを本機でできるように初期化 (フォーマット) します。 参照 詳しくは『USB メモリーを初期化する (Format USB)』(P.43) をご覧ください。
Rhythm	Auto Std Tempo	リズム・パターンのテンポ設定を自動的に切り替えないようにする (Auto Std Tempo)	
		リズム・パターンを切り替えても、自動的にテンポの設定が切り替わらないようにします。	
		OFF	リズム・パターンが止まっているときに、リズム・パターンを切り替えても、テンポの設定は自動的に変わりません。
		ON	リズム・パターンが止まっているときに、リズム・パターンを切り替えると、自動的にそのリズム・パターンにあったテンポに設定されます。
	Playback Transpose	曲を移調して再生する (Playback Transpose)	
		SMF 形式の曲を移調して再生します。 -6 ~ 0 ~ 5 (半音単位)	
Audio Rec Gain	オーディオ録音の音量を調節する (Audio Rec Gain)		
	オーディオ録音するときの音量を調節します。 -24 ~ 6dB		
Metronome	Switch	メトロノームの設定をする (Switch)	
		メトロノームの設定をします。	
		OFF	メトロノームをオフにします。
	REC	録音待機時と録音時に、メトロノームが鳴ります。	
	ON	常にメトロノームが鳴ります。	
	Volume	メトロノームの音量を調節する (Volume)	
メトロノームの音量を調節します。 1 ~ 10			
Wireless	本機の USB MEMORY 端子にワイヤレス USB アダプター (別売: WNA1100-RL または同等品) を装着することで、ワイヤレスに対応したアプリケーションが使えます。 参照 詳しくは『ワイヤレス LAN 機能について』(P.55) をご覧ください。		
MIDI			MIDI 送信チャンネルを選ぶ (TxMIDI Channel)
			本機の MIDI OUT 端子を使って、外部機器に演奏情報を送ることができます。各パートで弾いた情報を、どのチャンネルの MIDI 情報として送信するかを設定します。
	TxMIDI Channel Upper	1 ~ 16	
	TxMIDI Channel Lower	1 ~ 16	
	TxMIDI Channel Pedal	1 ~ 16	
	TxMIDI Channel Drum	1 ~ 16	
	TxMIDI Channel Control	1 ~ 16	
	MIDI IN Mode	MIDI IN モードを設定する (MIDI IN Mode)	
		本機には SMF 再生用と鍵盤用の 2 つの音源が搭載されています。MIDI IN Mode を変更することで、MIDI IN 端子からコントロールする内容を選ぶことができます。	
		MODE 1	SMF 再生用の音源 (GM2 音源) としてコントロールすることができます。
MODE 2		Ch5 から Ch10 までと Ch12、Ch14、Ch15 が SMF 再生用の音源 (GM2 音源)、その他のチャンネルが鍵盤用の音源に送られます。	
	KEYBOARD	MIDI キーボード (別売) を接続して、2 段鍵盤で演奏することができます (P.54)。	
Send PC Switch	PC ナンバーの送信を切り替える (Send PC Switch)		
	レジストレーション選択時に、MIDI OUT 端子からプログラム・チェンジ・ナンバーを送信するかしないかを設定します。		
	OFF	PC ナンバーを送信しません。	
	ON	PC ナンバーを送信します。	

はじめに

演奏する

録音する

ルーパー

設定する

資料



メニューの設定手順は P.45 をご覧ください。

カテゴリー	パラメーター	設定値	説明
MIDI		PC ナンバーを設定する (PC Number)	
		レジストレーション選択時に、MIDI OUT 端子から送信するプログラム・チェンジ・ナンバーを設定することができます。	
	PC Number BankMSB	0 ~ 127	
	PC Number BankLSB	0 ~ 127	
	PC Number PC Num	1 ~ 128	

		映像機器をコントロールする (Visual Control)	
		本機に MIDI ケーブルで接続した MIDI Visual Control または V-LINK 機器の映像をコントロールできます。Visual Control を設定して本機の鍵盤を弾くと、演奏に合わせて映像をコントロールできます。 ※ 映像コントロール用メッセージの MIDI 送信チャンネルは 16 チャンネルに固定されます。	
	OFF	Visual Control 機能がオフになります。	
	MIDI VISUAL CONTROL 1	MIDI Visual Control 機器をコントロールします。REGISTRATION ボタンを押すと、MIDI OUT 端子から映像コントロール用メッセージとして「バンク・セレクト」と「プログラム・チェンジ・ナンバー」が送信されます。このとき、Control の MIDI 送信チャンネルの設定は無視され、16 チャンネルで送信されます。	
	MIDI VISUAL CONTROL 2	MIDI Visual Control 機器をコントロールします。MIDI VISUAL CONTROL 2 では MIDI VISUAL CONTROL 1 の機能に加えて、鍵盤の一番右側の鍵から 12 番目までの鍵を押すと、MIDI OUT 端子から映像コントロール用メッセージとして「ノート情報」も送信されます。このとき、Upper、Lower、Pedal や Drums の MIDI 送信チャンネルの設定は無視され、16 チャンネルで送信されます。	
	V-LINK 1	V-LINK 機器をコントロールします。REGISTRATION ボタンを押すと、MIDI OUT 端子から映像コントロール用メッセージとして「バンク・セレクト」と「プログラム・チェンジ・ナンバー」が送信されます。このとき、Control の MIDI 送信チャンネルの設定は無視され、16 チャンネルで送信されます。	
	V-LINK 2	V-LINK 機器をコントロールします。V-LINK 2 では V-LINK 1 の機能に加えて、鍵盤の一番右側の鍵から 12 番目までの鍵を押すと、MIDI OUT 端子から映像コントロール用メッセージとして「ノート情報」も送信されます。このとき、Upper、Lower、Pedal や Drums の MIDI 送信チャンネルの設定は無視され、16 チャンネルで送信されます。	

System Visual Control



MIDI Visual Control とは？

MIDI Visual Control は、音楽演奏と映像表現を結びつけるために、MIDI 規格に追加された世界共通の推奨仕様です。MIDI Visual Control 対応の映像機器と電子楽器を MIDI で接続することにより、演奏に合わせて映像をコントロールすることができます。



V-LINK とは？

V-LINK は、音楽演奏と映像表現を結びつけるためのローランドの独自の仕様です。V-LINK 対応の映像機器と電子楽器を MIDI 端子に接続することにより、演奏に連動したさまざまな映像効果を簡単に楽しむことができます。



接続例

本機の MIDI OUT 端子と、Visual Control または V-LINK 対応機器の MIDI IN 端子を MIDI ケーブルで接続します。

※ 本機と Visual Control 対応機器を接続するには、MIDI ケーブル (別売) が必要です。





メニューの設定手順は P.45 をご覧ください。

カテゴリー	パラメーター	設定値	説明
System	Master Tune	他の楽器と音の高さを合わせる (Master Tune) 他の楽器とアンサンブルするときなど、本機の基準ピッチを他の楽器に合わせることができます。基準ピッチとは、一般的に、中央 A の鍵盤を弾いたときの音の高さのことをいいます。他の楽器とアンサンブル演奏をするときには、きれいなアンサンブルにするためにお互いの基準ピッチを合わせます。 415.3 ~ 440.0 ~ 466.2 Hz	
	LCD Contrast	本機のディスプレイの明るさを調節することができます。 参照 詳しくは『ディスプレイの明るさを調節する (LCD Contrast)』(P.41) をご覧ください。	
	Auto Off	本機は演奏や操作をやめてから一定時間経過すると、自動的に電源が切れます (工場出荷時の設定)。自動で電源を切る必要がない場合は、「Auto Off」を「OFF」に設定します。 参照 詳しくは『一定時間が経過すると自動で電源が切れるようにする (Auto Off)』(P.41) をご覧ください。	
	ATELIER Mode	アトリエ・モードで演奏する (ATELIER Mode) ローランドのミュージック・アトリエに近い振る舞いで演奏することができます (アトリエ・モード)。たとえば、オルガン音色だけにエフェクトをかけたリ、[▶/■] (START/STOP) ボタンを押すだけでリズムを鳴らしたりすることができます。	
	Factory Reset	本機に保存されている設定を、工場出荷時の状態に戻すことができます。 参照 詳しくは『工場出荷時の設定に戻す (Factory Reset)』(P.44) をご覧ください。	
		OFF	アトリエ・モードをオフにします。
		ON	アトリエ・モードをオンにします。



特定のアコースティック音色に効果をかける

D-BEAM コントローラーやペダル鍵盤 (別売: PK-9) のフットスイッチを使って、特定のアコースティック音色にさまざまな効果をかけることで、より豊かでリアルな演奏表現をすることができます。

D-BEAM コントローラーを使うとき: [CONTROLLER] ボタンの機能に、「N.Control 1」や「N.Control 2」を割り当てます (P.25)。

フットスイッチを使うとき: フットスイッチの機能 (L Foot Switch、R Foot Switch) に、「N. CONTROL1」や「N. CONTROL2」を割り当てます (P.50)。

本機では、以下のアコースティック音色に効果をかけることができます。

音色名	説明	効果	
		N. CONTROL1	N. CONTROL2
N.Trumpet (BRASS)	トランペットの倍音列で音程を下げていくフォール奏法が効果的です。	グリッサンド	フォール
N.Alto Sax (BRASS)	美しく張りのある音色とグロウル奏法が印象的です。	グリッサンド	グロウル
N.Flute (OTHERS)	吹き込む息の漏れ音までリアルなフルートの音色です。	スタカート	グロウル
N.AcousticBs (BASS)	弦を弾く音や指板に当たる音も入ったリアルな音色です。レガートで弾くと音程がつながります。	ポルタメント	ハーモニクス

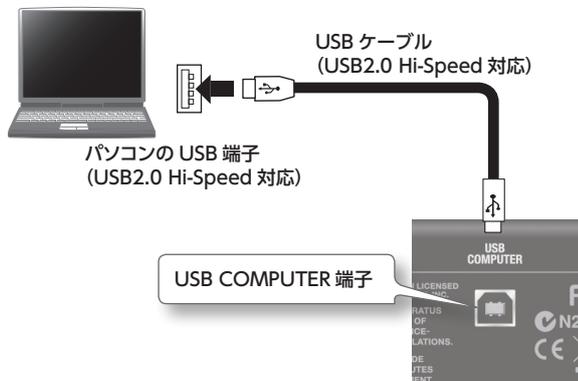
効果一覧

効果	説明
ポルタメント、グリッサンド	2 つの音をつなぐ奏法です。楽器の構造によって音程がなめらかにつながったり、連続的に次々と音を鳴らしてつながったりします。
フォール	管楽器などで音程を素早く下げながらデクレッシェンドしていく奏法です。
グロウル	管楽器で息と一緒にうなり声を上げて力強い音を出す奏法です。
ハーモニクス	弦を軽く押さえて倍音を鳴らす奏法です。鍵盤より 1 オクターブ高い音程の音が鳴ります。

他の機器と接続する

USB でパソコンと接続する

市販の USB ケーブルを使用して、本機の背面にある USB COMPUTER 端子とお使いのパソコンの USB 端子を接続すると、MIDI に対応したソフトウェア (DAW ソフトウェア) で再生した MIDI データを本機で鳴らすことができます。



動作条件については、ローランドのホームページをご覧ください。
ローランドのホームページ

<http://www.roland.com/jp/support/>

ご注意!

- パソコンの機種によっては、正しく動作しないことがあります。対応 OS については、ローランドのホームページをご覧ください。
- USB ケーブルは付属していません。ご購入の際には、本機をお求めになった販売店にお問い合わせください。
- USB ケーブルは、USB2.0 Hi-Speed 対応のものをお使いください。
- パソコンの USB 端子は、USB2.0 Hi-Speed 対応のものをお使いください。
- 本機の電源を入れてから、パソコンの DAW ソフトウェアを起動してください。また、DAW ソフトウェアを起動した状態で、本機の電源のオン/オフはしないでください。

USB MIDI

本機をパソコンと USB ケーブルで接続すると、DAW ソフトウェアを使って本機の演奏データ (MIDI データ) を記録したり、DAW ソフトウェアで再生した演奏データ (MIDI データ) を本機の音源部で鳴らしたりできます。

外部 MIDI 機器と接続する

外部 MIDI 機器と接続して演奏情報をやりとりすることで、お互いの演奏をコントロールすることができます。たとえば、本機の鍵盤を弾いて外部 MIDI 機器から音を出したり、音色を切り替えたりすることができます。



MIDI とは?

「MIDI」とは「Musical Instrument Digital Interface」の略で、電子楽器やパソコンの間で演奏情報のやりとりをするために作られた、統一規格です。

MIDI 端子について

MIDI OUT 端子

別売の MIDI ケーブルで、外部 MIDI 機器の MIDI IN 端子と接続します。鍵盤を弾く情報とダンパー・ペダルの操作情報、エクスプレッション情報、REGISTRATION ボタンを押した情報などを外部の MIDI 端子に送信します。



MIDI IN 端子

別売の MIDI ケーブルで、外部 MIDI 機器の MIDI OUT 端子と接続します。外部の MIDI 機器から送られてくる MIDI 情報を受信します。MIDI 情報を受信した本機は、音を出す、音色を切り替えるなどの動作をします。本機は、鍵盤用の音源と SMF 再生用の音源 (GM2 音源) の 2 つの音源を内蔵しています。MIDI IN Mode (P.51) を「[MODE 1]」に設定すると、外部機器から MIDI IN 端子に送られてきた演奏情報は SMF 再生用の音源 (GM2 音源) に送られます。「[MODE 2]」に設定すると、本機独自の音源をコントロールすることができます。

参照

MIDI の設定について詳しくは、メニューの『MIDI』(P.51) をご覧ください。

2 段鍵盤にして演奏する

本機の MIDI IN 端子に MIDI キーボード (別売) を接続することで、2 段鍵盤にして演奏することができます。

本機



MIDI キーボード

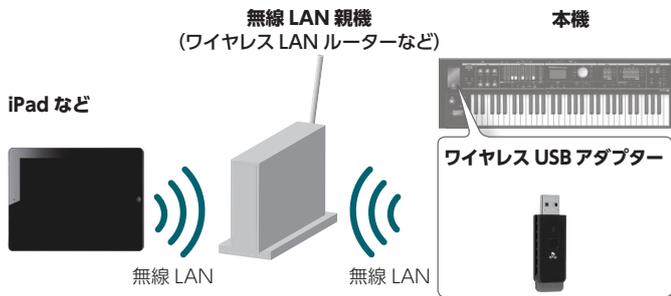


1. 本機の MIDI IN 端子と MIDI キーボード (別売) の MIDI OUT 端子を MIDI ケーブル (別売) で接続します。
2. MIDI IN Mode の設定を、「[KEYBOARD]」にします (P.51)。
3. スプリットの設定をします (P.29)。

ローワー・パートが自動的に MIDI キーボードに割り当てられます。本機の鍵盤では、全鍵域でアッパー・パートの音色が鳴ります。このとき、設定したスプリット・ポイントは無効になります。

ワイヤレス LAN 機能とは？

本機の USB MEMORY 端子にワイヤレス USB アダプター(別売: WNA1100-RL または同等品)を装着することで、ワイヤレスに対応したアプリケーションをご利用になれます。



ワイヤレス LAN 機能を使うために必要なもの

- ワイヤレス USB アダプター
- 無線 LAN 親機 (ワイヤレス LAN ルーターなど) *1 *2
- iPad や iPhone など

- *1 お使いの無線 LAN 親機が WPS に対応している必要があります。無線 LAN 親機と接続ができない場合は、Ad-Hoc モード (P.57) で接続してください。
- *2 すべての無線 LAN 親機との接続は保証していません。

基本の接続方法 (WPS で接続する)

本機で初めての無線ネットワークに接続する場合は、以下の操作 (WPS) をして無線ネットワークに参加してください。この操作は初回のみです (一度ネットワークに参加したら、以降はこの操作は不要です)。

WPS とは？

無線 LAN 親機との接続やセキュリティに関する設定を簡単にすることができる機能です。この WPS を使って無線 LAN 親機と接続することを推奨します。

1. ワイヤレス USB アダプターを本機の USB MEMORY 端子に差し込みます。
2. 本機の [MENU] ボタンを押します。
3. [VALUE] ダイアルを回して、[Wireless] を選びます。
4. 本機の [ENTER] ボタンを押します。
ワイヤレス・メニュー画面 (P.56) が表示されます。
5. CURSOR [▲] [▼] ボタンを押して、[WPS] を選びます。
WPS 画面が表示されます。



6. 無線 LAN 親機の WPS 操作をします (例: 無線 LAN 親機の WPS ボタンを押す)。

無線 LAN 親機の WPS の操作方法については、無線 LAN 親機の取扱説明書をご覧ください。

7. 本機の [ENTER] ボタンを押します。

接続が成功したら「CONNECTED」と表示されます。

※ 接続が成功するまでに、1～2分かかることがあります。

8. [EXIT] ボタンを数回押しして、元の画面に戻ります。

iPad アプリケーションなどからご利用になれます。iPad アプリケーションの楽器選択画面では、「VR-09」を選んでください。

ご注意！

アプリケーションが動く機器 (iPad など) が同じネットワークに接続されている必要があります。

メモ

- WPS を使って接続すると接続情報は記憶され、次回からは自動的に無線ネットワークに接続されます。
- ファクトリー・リセットをすると、接続情報はすべて削除されます。

ディスプレイのアイコン表示

ディスプレイ上部に無線 LAN の状態が表示されます。



表示	説明
	無線 LAN 親機と接続中です。電波レベル (接続している無線 LAN 親機の電波の強さ) を 3 本のバーで表示します。
	ワイヤレス USB アダプターが装着されていますが、無線 LAN 親機と接続されていません。
	ワイヤレス USB アダプターが未装着です (何も表示されません)。
	Ad-Hoc モード (P.57) です

ワイヤレス LAN 機能の設定

ワイヤレス設定の確認や変更ができます。

ワイヤレス・メニュー (Wireless)

1. [MENU] ボタンを押します。
2. [VALUE] ダイアルを回して、「Wireless」を選びます。
3. [ENTER] ボタンを押します。
ワイヤレス・メニュー画面が表示されます。



4. CURSOR [▲] [▼] ボタンを押して、変更したいメニューを選びます。

メニュー	説明
WPS	WPS を使って接続します (P.55)。
Options	ワイヤレス ID (Wireless ID) や Ad-Hoc モード (Ad-Hoc Mode) の設定をします (P.56)。

ステータス表示

ワイヤレス・メニュー画面の先頭に、無線 LAN の状態が表示されます。



表示	説明
CONNECTED	無線 LAN 親機と接続中です。接続している無線 LAN 親機の識別子(名前)が表示されます。
NOW CONNECTING	無線 LAN 親機と接続処理中です。
NOT CONNECTED	ワイヤレス USB アダプターが装着されていますが、無線 LAN 親機と接続されていません。
NOT AVAILABLE	ワイヤレス USB アダプターが未装着です。
ADHoc	Ad-Hoc モード (P.57) です。Ad-Hoc SSID と Ad-Hoc Key が表示されます。詳しくは『Ad-Hoc モードで接続する (Ad-Hoc Mode)』(P.57) をご覧ください。

その他の設定 (Options)

ワイヤレス ID (Wireless ID) や Ad-Hoc モード (Ad-Hoc Mode) の設定をします。

1. ワイヤレス・メニューから「Options」を選び、[ENTER] ボタンを押します (P.56)。
Options 画面が表示されます。



パラメーター	説明
Wireless ID	無線接続したアプリケーションに楽器として表示される、本機のデバイス名や Ad-Hoc SSID (VR-09) の末尾の数字を設定します。 通常は「0」に設定しますが、同じ楽器を複数お持ちの場合は、Wireless ID を 1 ~ 99 に設定することで、以下のように楽器ごとにデバイス名と Ad-Hoc SSID を変えることができます。 Wireless ID=0 のとき [VR-09] (初期値) Wireless ID=1 のとき [VR-09_1] : Wireless ID=99 のとき [VR-09_99]
Ad-Hoc Mode	Ad-Hoc モードのオン/オフを設定します。
Ad-Hoc Channel	Ad-Hoc モードのチャンネル (1 ~ 11) を設定します。通常、チャンネルは変更しません。接続がうまくいかない場合のみ、チャンネルを変更してみてください。

※ Options の設定は、Options 画面を抜けるときに確定し保存されます。

※ Wireless ID や Ad-Hoc Channel を変更した場合、接続が成功するまでに、1 ~ 2 分かかることがあります。

Ad-Hoc モードで接続する (Ad-Hoc Mode)

Ad-Hoc モードで接続します。

Ad-Hoc (アドホック) モードとは?

Ad-Hoc モードは、無線 LAN 親機を使わずに本機と iPad などの無線機器を直接接続することができます。自宅以外など、普段使用している無線 LAN 親機がない場所で本機と iPad などの無線機器を使用する場合に便利です。



制限事項

Ad-Hoc モードで接続した iPad などの無線機器は、インターネットや他の無線機器への通信ができなくなります。ただし、電話回線を持っている iPad などの無線機器の場合は、電話回線経由でインターネットと通信できます。

インターネットとの通信に電話回線を使用する場合は、料金プランによっては通信による課金が発生することがありますのでご注意ください。

1. ワイヤレス・メニューから「Options」を選びます (P.56)。
Options 画面が表示されます。
2. CURSOR [▲] [▼] ボタンで「Ad-Hoc Mode」を選びます。
3. [VALUE] ダイヤルで Ad-Hoc Mode を「ON」にします。
4. [EXIT] ボタンでワイヤレス・メニュー画面に戻り、CURSOR [▲] ボタンでステータスを表示させます。



Ad-Hoc SSID (VR-09) と Ad-Hoc Key (5桁の文字列) が表示されます。

メモ

Ad-Hoc SSID は、Options 画面の「Wireless ID」で設定した値が表示されます。

5. 接続する iPad などの無線機器から、上記画面に表示される Ad-Hoc SSID を選んで接続します (例: iPad の [設定] → [Wi-Fi] → [ネットワークを選択] で上記 Ad-Hoc SSID (VR-09) を選びます。パスワードを入力する画面が表示されますので、上記 Ad-Hoc Key を入力します)。

iPad などの無線機器で無線 LAN に接続する方法については、iPad などの無線機器の取扱説明書をご覧ください。

6. Ad-Hoc モードによる接続を終了したあとは、iPad の [設定] → [Wi-Fi] → [ネットワークを選択] の設定を元に戻します。

MAC アドレスを確認する

MAC アドレスは、ワイヤレス USB アダプターの裏面に記載されています。



故障かな?と思ったら

故障かな?と思ったらときは、まずお読みください。

電源が入らない

症状	原因	対策	ページ
[POWER] スイッチを押しても電源が入らない	ACアダプターが正しく接続されていない。	ACアダプターを正しく接続してください。	P.8
	電池が切れている。	電池を充電してください。	P.9

音が出ない/小さい

症状	原因	対策	ページ
EXT INPUT 端子に接続した機器の音量が小さい	抵抗入りの接続ケーブルを使用している。	抵抗入りの接続ケーブルを使用すると、EXT INPUT 端子に接続した機器の音量が小さくなる場合があります。 このときは、抵抗の入っていない接続ケーブルをご使用ください。	P.8
音が出ない	[VOLUME] つまみが最小の位置になっている。	[VOLUME] つまみで音量を調節してください。	—
	ヘッドホンまたはスピーカーを接続していない。	本機にスピーカーは内蔵されていません。 ヘッドホンまたはスピーカーを接続してください。	P.8
	[LEVEL] バーや、各セクションの LEVEL [▲] [▼] ボタンの音量が「0」になっている。	[LEVEL] バーまたは各セクションの LEVEL [▲] [▼] ボタンで、音量を調節してください。	—
	エクスプレッション・ペダルを踏み込んでいない。	エクスプレッション・ペダルを踏み込んでください。	—
	ハーモニック・バーがすべて上がった設定になっている。	ハーモニック・バーがすべて上がっていると、オルガン音色は鳴りません。 ハーモニック・バーを調節してください。	P.17
	Transistor Organ を選んでいて、右端にある [〜] バー、[∞] バーがすべて上がった設定になっている。	[〜] バー、[∞] バーがいずれも上がっていると、Transistor Organ 音色は鳴りません。	P.18
鍵盤でドラム音色/効果音を鳴らす設定にしている、ドラム音や効果音が割り当てられていない鍵盤を弾いている。	ドラム音色/効果音をオフにするか、ドラム音や効果音が割り当てられている鍵盤を弾いてください。	P.16	
音が出ない (外部機器と接続している場合)	接続している外部機器の電源が入っていない。	正しい順序で、接続している外部機器の電源を入れてください。	P.8 P.11
右から 12 鍵の音が鳴らない	Visual Control が「MIDI VISUAL CONTROL 2」または「V-LINK 2」になっている。	Visual Control が「MIDI VISUAL CONTROL 2」または「V-LINK 2」になっているときは、一番右側の鍵から 12 番目までの鍵を使って、映像をコントロールします。 そのため、一番右側の鍵から 12 番目までの鍵を弾いても音は出ません。 Visual Control を「OFF」、[MIDI VISUAL CONTROL 1]、または「V-LINK 1」にしてください。	P.52
ハーモニック・バーの 1' の音が鳴らない	[PERCUSSION] ボタンがオンになっている。	[PERCUSSION] ボタンがオンになっているときは、ハーモニック・バーの 1' の音は鳴らなくなります。故障ではありません。	P.21

音が正しく鳴らない

症状	原因	対策	ページ
鍵盤を弾く強さを変えても音が変わらない	音色によっては、鍵を押す強さに関係なく一定の音量で鳴るものがあります。	故障ではありません。	—
	Initial Touch の設定が「OFF」になっている。	Initial Touch の設定を調節してください。	P.48
	エフェクトのコンプレッサーがかかっている。	[COMPRESSOR] つまみを左に回しきってください。	P.24
スプリットされない	MIDI IN Mode の設定が「KEYBOARD」になっている。	MIDI 鍵盤を接続して 2 段鍵盤モードで使用するとき以外は、MIDI IN Mode を「MODE 1」または「MODE 2」にしてください。	P.51 P.54

症状	原因	対策	ページ
エフェクトがかからない	音色によっては、効果がかけられないものがあります。	故障ではありません。	—
	レジストレーションを切り替えたときなど、エフェクトつまみの位置と実際の設定値が異なる場合があります。	エフェクトつまみを操作して、設定値が最小になっていないか確認してください。	P.24
	マルチ・エフェクトの「TWIN ROTARY」は、ロータリー効果と合わせて使ったときに、2台の回転スピーカーを使ったときのような効果が得られるエフェクトです。	ROTARY SOUND [ON/OFF] ボタンで、ロータリー効果をオンにしてください。	P.20
ロータリー効果をオフにしても、うねり効果がかかる	マルチ・エフェクトのタイプに「TWIN ROTARY」を選んでいる。	[MFX] つまみを回して効果を最小にするか、マルチ・エフェクトのタイプを変更してください。	P.24
音程がずれている	トランスポーズ（移調）している。	[TRANSCOPE] ボタンを押しながら [-] と [+] ボタンを押して、トランスポーズを解除してください（[TRANSCOPE] ボタンは消灯）。	P.27
	チューニングがずれている。	MASTER TUNE を「440.0 Hz」にしてください。	P.53
	オクターブの設定をしていて、推奨音域からはずれた鍵を弾いている。	オクターブの設定を変えてください。	P.27
音が歪む／音が割れる	各パートの音量を上げすぎている。	[LEVEL] バーや各セクションの LEVEL [▲] [▼] ボタンで、音量を下げてください。	—
	各パートの音量を上げた状態で、リバーブの音量を上げている。	[VOLUME] つまみで、全体の音量を下げてください。	—
	全体の音量を上げすぎている。	[OVERDRIVE] つまみを左に回しきってください。	P.24
	エフェクトのオーバードライブがかかっている。	故障ではありません。	—
鍵の押す位置（鍵域）によって音の鳴りかたがおかしい	音色の推奨音域から外れた鍵を弾いている。	故障ではありません。	—
ペダル鍵盤を弾いていないのにペダル・パートの音色が鳴る	手ベースの設定にしている。	手ベースの設定にしていると、ロー・パートはペダル・パートの音色が鳴ります。また、ペダル鍵盤を踏んでも音は鳴りません。手ベースの設定を解除してください。	P.30
ペダル鍵盤の音が出ない			
オルガン音色で演奏しているときに、鍵盤を押す／離すとノイズが聴こえる	トーンホイール・オルガンで生じる鍵盤のオン／オフのノイズ（クリック音）を再現したものです。	故障ではありません。	P.45
オルガン音色が二度鳴りする	本機では、ピンテージ・オルガン鍵盤の振る舞いを再現しています。そのため、急速に離鍵するとリバウンドが起こり、二度鳴りのような振る舞いがあります（クイック・ファイアリング）。	故障ではありません。	P.13

録音時のトラブル

症状	原因	対策	ページ
録音できない	USB メモリーを接続していない。	録音するには、USB メモリーを USB MEMORY 端子に接続しておく必要があります。	P.6
演奏していない音が録音される	リズム・パターンが選ばれている。	[SONG/RHYTHM] ボタンを数回押して、消灯させてから、録音してください。	—
オーディオ録音時に音が歪む／音が割れる	Audio Rec Gain の設定値を上げすぎている。	Audio Rec Gain の設定値を下げてください。	P.51

演奏機能が正しく動かない

症状	原因	対策	ページ
ダンパー・ペダルが効かない	ダンパー・ペダルは設定したパートのみに効きません。	Damper Part の設定を確認してください。	P.49
フット・スイッチに割り当てている機能が使えない	Registration Shift を「RIGHT」または「LEFT」に設定にしている。	Registration Shift を「RIGHT」または「LEFT」に設定にしているときは、フット・スイッチはレジストレーション切り替え専用になります。Registration Shift を「OFF」にしてください。	P.50
ピッチ・バンド／モジュレーション・レバーを動かしても効果がかけられない	オルガン・セクションの音色のみが選ばれている。	オルガン・セクションの音色は、ピッチ・バンド／モジュレーション・レバーでピッチ・バンド効果やモジュレーション効果を加えることはできません。ピアノ・セクションやシンセサイザー・セクションの音色をお使いください。	P.13

故障かな?と思ったら

オーディオ・ファイルについて

症状	原因	対策	ページ
オーディオ・ファイルが再生できない	本機に対応していないオーディオ・ファイルを再生しようとしている。	再生できるオーディオ・ファイルの形式を確認してください。	P.37

その他

症状	原因	対策	ページ
USB メモリーがうまく読み書きできない	ローランドの USB メモリー以外を使用している。	ローランドの USB メモリー以外を使用したときの動作は保証できません。	—

ワイヤレス LAN 機能使用時のトラブル

※ **通信に関するトラブルについては、無線 LAN 親機の取扱説明書もご覧ください。**

※ 無線 LAN 親機の操作方法については、無線 LAN 親機の取扱説明書をご覧ください。

現象	原因/対策	ページ
無線 LAN 親機に接続できない	<ul style="list-style-type: none"> お持ちの無線 LAN 親機が WPS に対応しているかご確認ください。無線 LAN 親機が WPS に対応していない場合は、『Ad-Hoc モードで接続する (Ad-Hoc Mode)』(P.57) の手順で接続することができます。 無線方式 802.11a / b には対応していません。無線方式 802.11g / n (2.4GHz) をご使用ください。 認証方式 WEP には対応していません。認証方式 WPA / WPA2 をご使用ください。 無線 LAN 親機の DHCP が設定されているかご確認ください。 電源を入れても以前接続した無線 LAN 親機に接続されない場合は、『Ad-Hoc モードで接続する (Ad-Hoc Mode)』(P.57) が「OFF」になっていることをご確認ください。 電波状況によってうまく接続できない場合もあります。その場合は、『基本の接続方法 (WPS で接続する)』(P.55) の手順で無線 LAN 親機を選択して接続し直してください。 記憶できる接続情報の数には限りがあります。新しい接続をすることで、古い接続情報が削除されることがあります。ファクトリー・リセットをすると接続情報はすべて削除されます。接続情報が削除されてしまった場合は、再度無線 LAN 親機への接続をしてください。 	
「AP Not Supported」と表示され、無線 LAN 親機に接続できない	対応していないアクセス・ポイントです。認証方式 WPA / WPA2 をご使用ください。	
通信が不安定	<p>電波を利用しているので状況によっては通信が不安定になることがあります。通信が不安定になると、反応がにぶくなったりオーディオの通信の場合は音声途切れたりします。以下の方法で改善することがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 無線 LAN 親機と本機を近づける。 無線 LAN 親機のチャンネル設定を変更する。 	P.55 ~ P.57
アプリケーションの楽器接続で、本機が見つからない	<ul style="list-style-type: none"> 本機の電源は入っていますか? ワイヤレス USB アダプター (WNA1100-RL または同等品) は本機に装着されていますか? 本機は無線 LAN に接続されていますか? 本機と iPad は同じネットワークに (同じ無線 LAN 親機) に接続されていますか? 無線 LAN 親機は無線 LAN 機器同士の通信を許可する設定になっていますか? 設定に関しては無線 LAN 親機の取扱説明書をご覧ください。 	
iPad がインターネットにつながらない	<ul style="list-style-type: none"> 無線 LAN 親機はインターネットに接続されていますか? アドホック・モードで接続していませんか? アドホック・モードで接続した iPad などの無線機器は、インターネットや他の無線機器への通信ができなくなります。ただし、電話回線を持っている iPad などの無線機器の場合は、電話回線経由でインターネットと通信できます。インターネットとの通信に電話回線を使用する場合は、料金プランによっては通信による課金が発生することがありますのでご注意ください。 	

エラー・メッセージ一覧

操作に誤りがあったり、操作どおりに正しく処理できなかつたりしたときは、エラー・メッセージが表示されます。表示されたエラー・メッセージの指示に従って対応してください。

メッセージ	意味	対応
Battery Low!	電池の残量がありません。	電池を充電するか、ACアダプターを使ってください。
Can't Read	USB メモリーからデータを読み込むことができません。	USB メモリーが正しく挿入されているか確認してください (P.6)。また、ローランドが販売している USB メモリーを使っているかを確認してください。
	ファイルが壊れています。	
	ファイルのフォーマットが正しくないので、読み込むことができません。 本機では再生できないファイルです。	
Charge Battery	電池の残量が少なくなっています。	電池を充電するか、ACアダプターを使ってください。
Communication Error	MIDI IN 端子の接続が切られました。	本機の MIDI IN 端子に接続している MIDI ケーブルに異常はないか、また MIDI ケーブルが抜けていないか確認してください。
Copy Protected. Can't Save	著作権保護されているソング・データのため保存できません。	このソング・データは再生のみできます。
Damaged Media	USB メモリーが壊れている可能性があります。	USB メモリーを初期化し直してください (P.43)。または、別の USB メモリーを用意してください。
Media Full	USB メモリーの容量がいっぱいになって、書き込むことができません。	USB メモリーの不要なファイルを削除してください。または、空き容量のある別の USB メモリーを用意してください。
Memory Error	システム・メモリーの内容が壊れている可能性があります。	ファクトリー・リセットをしてください (P.44)。それでも直らないときは、お買い上げ店またはお客様相談センターにお問い合わせください。
MIDI Buffer Full!	非常に大量の MIDI データを受信したので処理できません。	送信する MIDI メッセージの量を減らしてください。
No storage media is inserted.	USB メモリーが差し込まれていません。または差し込みが不完全な状態で操作しています。	一度電源を切り、USB メモリーを確実に差し込んで、再度電源を投入してください (P.11)。
Unsupported Media!	本機では対応していない USB メモリーが接続されています。	ローランドが販売している USB メモリーを使用してください。それ以外の製品を使用したときの動作は保証できません。
Write Error!	USB メモリーにデータを書き込むことができません。	USB メモリーが正しく挿入されているか確認してください (P.6)。また、ローランドが販売している USB メモリーを使っているかを確認してください。
Write-Protected.	ファイルが書き込み禁止になっています。	ファイルが書き込み禁止になっていないか確認してください。

記憶される設定

電源を切っても記憶される設定

設定	説明	ページ
Registration Shift	レジストレーション・シフト	P.50
Damper Assign	ダンパー・ペダルの機能	P.48
Expression Assign	エクスプレッション・ペダルの機能	P.49
Expression Curve	エクスプレッション・カーブ	P.49
D-BEAM Sensitivity	D-BEAM の感度	P.50
Modulation Lever	モジュレーション・レバーによるロータリー効果の切り替え	P.50
Auto Std Tempo	オート・スタンダード・テンポ	P.51
Switch (Metronome)	メトロノームの設定	P.51

設定	説明	ページ
Volume (Metronome)	メトロノームの音量	P.51
MIDI IN Mode	MIDI IN モード	P.51
Send PC Switch	PC ナンバー送信のオン/オフ	P.51
Master Tune	マスター・チューニング	P.53
LCD Contrast	LCD コントラスト	P.41
Auto Off	オート・オフ	P.41
Wireless	ワイヤレス設定	P.55
ATELIER Mode	アトリエ・モード	P.53

レジストレーションに登録される設定

設定	説明	ページ
—	音色のバリエーション	P.13
—	レジストレーションの名前	P.16
—	[TRANSPOSE] ボタンの設定 (鍵盤移調の設定)	P.27
—	ROTARY [FAST/SLOW] ボタンのオン/オフ	P.20
—	ROTARY SOUND [ON/OFF] ボタンのオン/オフ	P.20
—	ロータリー効果の回転/停止状態 (ROTARY BRAKE)	P.50
—	パーカッションの設定	P.21
—	ビブラート効果/コーラス効果の設定	P.22
—	デュアル/スプリットの設定	P.28
—	スプリット・ポイントの設定	P.32
—	ハーモニック・バーの設定	P.17
—	シンセサイザー音色の設定	P.23
—	LEVEL [▲] [▼] ボタン、[LEVEL] バーの設定 (各セクションの音量)	—
—	各パートのオクターブの設定	P.27
—	エフェクトの設定	P.24
—	リズム・パターンの種類	P.33
—	テンポの設定	P.33
—	リズム・パターンの音量	P.33
—	D-BEAM コントローラーのボタンの設定	P.25
Vibrato/Chorus Part	ビブラート効果/コーラス効果のパート	P.45
Leakage Level	リーケージ・ノイズの量	P.45
On Click Level	クリック音の音量 (鍵盤を押したとき)	P.45
Off Click Level	クリック音の音量 (鍵盤を離したとき)	P.45
Organ Low Gain	低域の増幅/減衰量	P.46
Organ High Gain	高域の増幅/減衰量	P.46
Rotary Type	ロータリー効果のタイプ	P.46
Woofer Accel	ウーファアの回転周期の変化	P.46
Tweeter Accel	ツイーターの回転周期の変化	P.46
Wf Rise Time	ウーファアの回転 (SLOW → FAST) が変化する速度	P.46
Tw Rise Time	ツイーターの回転 (SLOW → FAST) が変化する速度	P.46
Wf Fall Time	ウーファアの回転 (FAST → SLOW) が変化する速度	P.46
Tw Fall Time	ツイーターの回転 (FAST → SLOW) が変化する速度	P.46

設定	説明	ページ
Wf Slow Speed	ウーファアの低速回転時の速度	P.46
Tw Slow Speed	ツイーターの低速回転時の速度	P.46
Wf Fast Speed	ウーファアの高速回転時の速度	P.47
Tw Fast Speed	ツイーターの高速回転時の速度	P.47
MFx Type	マルチ・エフェクトのタイプ	P.47
OD/Dry Mix Level	オーバードライブにミックスするドライフト音の音量	P.47
Delay Type	ディレイ・タイプ	P.47
Reverb Type	リバーブ・タイプ	P.48
Wall Type	ウォール・タイプ	P.48
Portamento	ポルタメントの設定	P.26
Initial Touch	イニシャル・タッチの効き具合	P.48
PedalBass Mode	ペダル・ベース・モード	P.48
Solo Mode	ソロ・モード	P.48
Expression Part	エクスプレッション・ペダルが効くパート	P.49
Registration Shift (*1)	レジストレーション・シフト	P.50
L Foot Switch	左フットスイッチの機能	P.50
R Foot Switch	右フットスイッチの機能	P.50
N.Control	アコースティック音色にかける効果が効くパート	P.50
Damper Part	ダンパー・ペダルが効くパート	P.49
Expression Curve (*1)	エクスプレッション・カーブ	P.49
Pitch Bend Range	ピッチ・バンドのレンジ	P.49
TxMIDI Channel Upper	MIDI 送信チャンネル	P.51
TxMIDI Channel Lower		
TxMIDI Channel Pedal		
TxMIDI Channel Drum		
TxMIDI Channel Control	PC ナンバー	P.52
PC Number BankMSB		
PC Number BankLSB		
PC Number PC Num		

*1: レジストレーションごとではなく、レジストレーション・セットごとに登録されます。

主な仕様

ローランド V-Combo VR-09、VR-730 : キーボード

	VR-09	VR-730
鍵盤部		
鍵盤	61 鍵 (ペロシティー対応)	73 鍵 (セミウェイトッド・ウォーターフォール鍵盤、ペロシティー対応)
キーボード・モード	フル・キーボード デュアル (音量バランス設定可能) スプリット (スプリット・ポイント、音量バランス設定可能) 2 段鍵盤モード (別売 MIDI キーボード接続時)	
音源部		
音源	バーチャル・トーンホイール・オルガン、SuperNATURAL シンセ、PCM シンセ ※ GM2 音色を含む	
最大同時発音数	128 音	
パート数	オルガン (3 パート)、ピアノ (2 パート)、シンセサイザー (2 パート)、ドラム (1 パート)、GM2 (16 パート)	
音色	245 音色	268 音色
レジストレーション	100 (4 × 25 バンク)	
エフェクト (7 系統常時動作/グローバル・コントロール)	オーバードライブ トーン コンプレッサー マルチ・エフェクト: 20 種類 ディレイ: 6 種類 リバーブ: 6 種類 ロータリー: 3 種類	
SMF / オーディオ・ファイル・プレーヤー部		
再生可能ファイル・フォーマット	SMF ファイル: フォーマット 0、1 オーディオ・ファイル: WAV、AIFF、MP3	参照 再生できるファイルについては詳しくは、『パソコンの SMF / オーディオ・ファイルを再生する』(P.37) をご覧ください。
録音ファイル・フォーマット	SMF ファイル: フォーマット 0 オーディオ・ファイル: WAV (44.1kHz、16 ビット・リニア、ステレオ)	
ルーパー部		
録音時間	20 秒 (ステレオ)	
録音/読み込み可能ファイル・フォーマット	オーディオ・ファイル: WAV (44.1kHz、16 ビット・リニア、ステレオ)	
その他		
リズム・パターン	52	
コントローラー	バーチャル・トーンホイール・オルガン: ハーモニック・バー ×10 シンセサイザー・コントローラー: スライダー ×5 D-BEAM コントローラー ピッチ・ベンド/モジュレーション・レバー エフェクトつまみ ×6 (グローバル・コントロール)	
ディスプレイ	グラフィック LCD 128 × 64 ドット	
外部メモリー	USB メモリー	
接続端子	OUTPUT (L/MONO、R) 端子: 標準タイプ PHONES 端子: ステレオ標準タイプ EXT INPUT 端子: ステレオ・ミニ・タイプ DAMPER 端子: TRS 標準タイプ EXPRESSION PEDAL 端子: TRS 標準タイプ	MIDI (IN、OUT) 端子 PK IN 端子: 8 ピン DIN タイプ USB COMPUTER 端子: USB B タイプ (USB MIDI 対応) USB MEMORY 端子: USB A タイプ DC IN 端子
電源	AC アダプター、充電式ニッケル水素電池 (単 3 形) ×8	
消費電流	600mA 連続使用時の電池の寿命 (電池の仕様や使用状態によって異なります) 充電式ニッケル水素電池: 約 5 時間 (USB メモリー接続時は約 3 時間) ※ マンガン電池、アルカリ電池は使用不可	
外形寸法	1,008 (幅) × 300 (奥行) × 106 (高さ) mm	1,215 (幅) × 366 (奥行) × 124 (高さ) mm
質量	5.5kg (AC アダプターを除く)	9.9kg (AC アダプターを除く)
付属品	取扱説明書 「安全上のご注意」チラシ AC アダプター 電源コード USB メモリー・プロテクター 保証書 ローランド ユーザー登録カード	取扱説明書 「安全上のご注意」チラシ AC アダプター 電源コード 保証書 ローランド ユーザー登録カード フェライト・コア
別売品	キーボード・スタンド: KS-18Z、KS-12 ペダル・スイッチ: DP シリーズ エクスペディション・ペダル: EV シリーズ ペダル鍵盤: PK-9 USB メモリー ※ 市販の USB メモリーまたはローランドが販売している USB メモリーをお使いください。ただし、市販されている USB メモリーすべての動作を保証するものではありません。	

※ 本書は、発行時点での製品仕様を説明しています。最新情報についてはローランド・ホームページをご覧ください。

はじめに

演奏する

録音する

ルーパー

設定する

資料

索引

記号	
[1] ~ [4] ボタン	15
2 段鍵盤	54
[●] (REC) ボタン	34
[▶/■] (START/STOP) ボタン	35
[◀/◀] ボタン	35
[▶/▶] ボタン	35
アルファベット	
A	
Ad-Hoc モード	57
AIFF	37
ATELIER Mode	53
[ATTACK] パー	23
Audio Rec Gain	51
Auto Off	41
Auto Std Tempo	51
B	
BANK 画面	15
[BANK] ボタン	15
[BASS] ボタン	7
Battery Low!	9
[BRASS] ボタン	7
C	
Charge Battery	9
[CHOIR] ボタン	7
[CLAV] ボタン	7
[COMPRESSOR] つまみ	24
CURSOR [▲] [▼] ボタン	7
[CUTOFF] パー	23
D	
Damper Assign	48
Damper Part	49
DAMPER 端子	8
D-BEAM	
[CONTROLLER] ボタン	25
[PITCH] ボタン	25
[SFX] ボタン	25
D-BEAM Sensitivity	50
D-BEAM 画面	25
D-BEAM コントローラー	25
感度	50
DC IN 端子	8
[DECAY] パー	23
Delay Type	47
[DELAY] つまみ	24
Delete Registration	43
DRUM LEVEL [▲] [▼] ボタン	33
DRUM 画面	16
[DRUM] ボタン	16
E	
[ENTER] ボタン	7
[E. PIANO] ボタン	7
[EXIT] ボタン	7
Expression Assign	49
Expression Curve	49
Expression Part	49
EXPRESSION PEDAL 端子	8
EXT INPUT 端子	8
F	
Factory Reset	44
Format USB	43
I	
Initial Touch	48
L	
LCD Contrast	41
Leakage Level	45
[LEVEL] パー	6
L Foot Switch	50

Load Registration	42
[LOOPER] ボタン	38
M	
Master Tune	53
[MENU] ボタン	45
MFx Type	47
[MFx] つまみ	24
MIDI	54
MIDI IN Mode	51
MIDI Visual Control	52
MIDI 端子	54
MODE [ORGAN] ボタン	13
MODE [PIANO] ボタン	14
MODE [SYNTH] ボタン	14
MODE ボタン	3
Modulation Lever	50
MP3	37
N	
N.Control	50
[NEXT] ボタン	15
O	
OCTAVE [DOWN] [UP] ボタン	27
OD/Dry Mix Level	47
Off Click Level	45
On Click Level	45
Organ High Gain	46
Organ Low Gain	46
ORGAN [SPLIT] ボタン	29
[OTHERS] ボタン	7
OUTPUT 端子	8
[OVERDRIVE] つまみ	24
P	
[PAD] ボタン	7
PC Number	52
PedalBass Mode	48
[PERCUSSION] ボタン	21
PHONES 端子	8
PIANO LEVEL [▲] [▼] ボタン	7
[PIANO] ボタン	7
Pitch Bend Range	49
PK IN 端子	8
Playback Transpose	51
Portamento	26
[POWER] スイッチ	11
R	
Registration Shift	50
[RELEASE] パー	23
[RESONANCE] パー	23
Reverb Type	48
[REVERB] つまみ	24
R Foot Switch	50
RHYTHM 画面	33
ROTARY SOUND [FAST/SLOW] ボタン	20
ROTARY SOUND [ON/OFF] ボタン	20
Rotary Type	46
S	
Save Registration	41
Send PC Switch	51
[SFX] ボタン	7
SMF ファイル	37
SMF 録音	34
Solo Mode	48
[SONG/RHYTHM] ボタン	33、35
SONG 画面	35
[STRINGS] ボタン	7
Switch	51
[SYNTH LEAD] ボタン	7
SYNTH LEVEL [▲] [▼] ボタン	7
SYNTH [SPLIT] ボタン	31

T	
[TAP TEMPO] ボタン	33
TEMPO 画面	33
[TONE] つまみ	24
[TRANSPOSE] ボタン	27
Tweeter Accel	46
Tw Fall Time	46
Tw Fast Speed	47
TWIN ROTARY	20
Tw Rise Time	46
Tw Slow Speed	46
TxMIDI Channel	51
[TYPE] ボタン	13
U	
[UPPER/LOWER] ボタン	29
USB COMPUTER 端子	54
USB MEMORY 端子	6
USB MIDI	54
USB メモリー	6、37
初期化	43
USB メモリー・プロテクター	12
V	
[VALUE] ダイアル	7
Vibrato/Chorus Part	45
[VIBRATO/CHORUS] ボタン	22
Visual Control	52
V-LINK	52
Volume	51
[VOLUME] つまみ	7
W	
Wall Type	48
WAV	37
Wf Fall Time	46
Wf Fast Speed	47
Wf Rise Time	46
Wf Slow Speed	46
Wireless	56
Woofer Accel	46
WPS	55
かな	
あ	
アダプター	8
アッパー・パート	29
え	
エクスプレッション・ペダル	8
エフェクト	24
お	
オーディオ・ファイル	37
再生	35
オーディオ録音	34
オート・オフ	41
オーバーダビング	38
オクターブ	27
オルガン・セクション	3、6
音色を選ぶ	13
音量	7
曲	33
シンセサイザー・セクション	7
ドラム・セクション	33
ピアノ・セクション	7
リズム・パターン	33
き	
曲	
再生	35
削除	36
名前	36
保存	34

く	
クイック・ファイアリング	13
クリック音	45
こ	
工場出荷時の設定	44
コーラス	22
さ	
再生	
曲	35
削除	
曲	36
レジストレーション・セット	43
サンプリング周波数	37
し	
システム・エクスクルーシブ	37
シンセサイザー・セクション	3、7
音量	7
す	
スタンド	10
スプリット	29
スプリット・ポイント	32
た	
ダンパー・ペダル	8
つ	
ツイン・ロータリー	20
て	
ディスプレイ	6
明るさ	41
手ベース	30
デモ曲	11
デュアル	28
電源	11
電池	9
テンポ	33
と	
トーンホイール・オルガン	13
トーンホイール・ブレーキ	25
ドラム・キット	16
ドラム・セクション	3、7
音量	33
トランスポーズ	27
な	
名前	
曲	36
レジストレーション	16
は	
パーカッション	21
パート1、パート2	28
ハーモニック・パー	17
セッティング例	19
パソコン	37、54
ひ	
ピアノ・セクション	3、7
音量	7
ピッチ・バンド/モジュレーション・レバー	26
ビット数	37
ビブラート	22
ふ	
ファイル・サイズ	37
ファクトリー・リセット	44
フィート	17
フェライト・コア	9
フォーマット	37
フレーズ	40
保存	40
へ	
ペダル・スイッチ	8
ペダル・パート	30
ほ	
保存	
曲	34
フレーズ	40
レジストレーション・セット	41
ポルタメント効果	26
め	
メニュー	45
よ	
読み込み	
レジストレーション・セット	42
り	
リズム・パターン	33
選ぶ/鳴らす	33
音量	33
テンポ	33
る	
ルーパー	38
れ	
レジストレーション	15
登録	16
名前	16
バンク切り替え	15
呼び出す	15
レジストレーション・セット	
削除	43
保存	41
読み込み	42
ろ	
ロータリー効果	20
録音	34
六角レンチ	12
ローワー・パート	29
わ	
ワイヤレス LAN 機能	55

